

ボーイスカウト中野7団

20年の歩み

中野7团团歌

作曲 木目之
作词 高橋聖人

1. たくましく胸に抱けた 懐の中に

真実を見つめる 目が光る

鍛えた身体で挑戦しよう

未知の世界に

我ら手を取り 共に進もう

栄光の7団

7団 中野7団

2. “そなえよつねに”の 心の中に

決断行い 勇気が見える

率性の心で 共に創ろう

平和な世界を

我ら手を取り 共に歩もう

栄光の7団

7団 中野7団

たくましく胸に抱けた 懐の中に
 しんりを見つめる 目が光る
 またえたから挑戦しよう 未知の世界に
 我ら手を取り 共に進もう
 えいこうのな なだんをば ほんがのなを ぶる

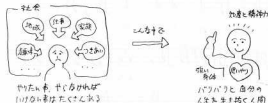
20周年を迎えて

BS探険隊 鈴木 信之

“SPIRITS FOREVER” —— 7団精神永遠に —— これは、数年前リーダー達が新しいトレーナーを作った時に、半ば偶然に生まれた7団のキャッチフレーズです。私はこの言葉が大変気に入っています。

それは、BS探険隊長という責任を負っている私にとって「ボーイスカウトの目指す精神とは何か、よく考えなさい」と問うているように思えるからです。言うまでもなく、ボーイスカウトは「野外生活訓練所」とか、単なる「親睦団体」以上のものです。あくまで「より良き社会人になるために」キャンプがあり、ハイキングがあり、隊集会があります。ところが個人個人の生き方、考え方には種々なものがあって「良き社会人とは何か」に対する答えは単純ではありません。

ただ、私自身、20年近くのスカウト経験を経験して痛切に感じたことは、生き方はどうあろうとも「生きていること」の基本的な精神はみんな共通なのではないかという点です。マンガで表わしてみると



周囲の方々、御父兄の方々の御協力を得ながら、7団はこの精神をスカウト達に理解・実践してもらおうと努力してきました。

“SPIRITS FOREVER” が真に “FOREVER” になるように、今後共宜しくお願い致します。

東京連団事務局長 武田 次夫

中野第7団結成20周年おめでとうございます。

昭和40年に東京第168団より分れて新井の地に、東京第257団として誕生してから早や20年という歳月が経ったのかと感慨亦一人入るものがあります。

当時、私は西部地区コミッショナーという立場でしたが、第168団の事情、特に豊宮、野方、沼袋、新井と広範囲にまたがった地域の中で、新井地区に新団結成の動きが出てきたわけですが、種々の問題が重なり、新団結成に至るまでの道のりは長く幾度かの命を重ね、話し合いを繰り返したことをおぼえています。やがて安達謙雄、増上正弘、高橋園子氏等の熱意と努力によって第257団ができることになりましたが、登録審査の際、シニア隊のみ登録まで大変無理な点がありました。41年度には、ボーイ隊を作るからのと熱意で登録を認めることになりました。

その後、私は昭和45年4月に新井小学校勤務となり新井小学校の数多くの子どもが、257団へ入隊するようになりまして、私にとって中野第7団の活躍発展には大いに期待するものがありました。

今年20才の成人式を迎えた中野第7団が社会に貢献できる有為の人材を育てる団として益々発展されることを祈って止みません。

20周年によせて

中野地区委員長 田口 榮三

中野第7団の発団20周年をお祝い申し上げます。

短いでも長いふた昔の節目を越えられたことは素晴らしいことであり、関係ある方々のご奉仕とご尽力に敬意と感謝を表します。

さて、21世紀をなう青少年が健やかに、そして、たくましく育ってほしいという願いは、誰もが持っていることでしょう。

しかし、現在の社会はいろいろな問題を抱えており、青少年にさまざまな影響を与えています。その上、体の成長は著しいが心がそれに追いつかない均衡のとれていない子どもが多くなっています。特に、「抱への思いやり」「感謝の気持ち」が薄く、「耐える心」が弱く、「自分だけ良ければ」という気持ちが強いという風潮は困ったことです。

ですから、このような女性の中であるからこそ、「ちかひ」と「おきて」の実践を基盤としてスカウト運動をしていくことが、青少年を健全に育成することになるのだと考えを強くするものです。

そのためには、第一に、スカウトの保護者はもちろんのこと地域の成人の方々の奉仕と協力をいただく必要があります。第二に、この活動に必要な経費を十分に確保することです。この運動に賛同して下さる方々から後援していただくことが大切だと思います。

第一で申し上げたいことに関係して大事なことといえば、誰でも奉仕をしようとするれば出来ずが、その方が願だけのスカウティング、生かじりのスカウティング、技能偏重のスカウティングでなく、青少年と共に自然とのふれ合いを持ちたり、規律正しい生活、互助と奉仕の精神でのかかわり合いなどを大切にしていってくださることを望むものです。

よい成人の指導のもとに、スカウト諸君が同世代の青少年の模範として活躍されることを期待するとともに、私たちの方で住みよい幸せな社会にしたいものだと思います。

一つの火は小さくても、たくさんの火が集まれば明るくなります。中野第7団と他の人々のために、一人一人が自ら力強く燃え、世の中を照し、素晴らしい社会にするよう努力していこうではありませんか。 中野第7団の今後の発展と榮栄を祈念いたします。

お 祝 い の 言 葉

中野地区協議会長 松 原 竹 造

中野第7団発団20周年おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

中野第7団は20年前、中野第4団(東京第168団)より分団して、東京第257団として発足して、今日に至ったわけであります。その間の長い年月にはいろいろと波風や、晴天の連続であったことと、今日までのご苦労が実を結び、本日の20周年の祝事となったのであります。

この事はまことに団委員長、育成会長、団委員の方々、並に各隊の優秀な指導者の方々の長い年月に渡って、B・Pの精神のもとに活動したご苦労とご努力の結晶であります。古来より「10年一昔」と良く言われておりますが、二昔も過ぎました。振り返れば、長いほど短い年月でもあったことと思います。

「過ぎれば苦も楽しい」の言葉の通りです。現時の青少年の育成についてボーイスカウト運動の必要性が益々期待されております。

中野第7団の使命は21世紀に向け幾つもの山を越えて不滅の歴史を刻み発展することを祈ります。

「ちかい」と「おきて」を実践して大きな輪となってスカウティングの道を歩み育て、次の30周年には更に大きな輪となって下さる様ご活躍の程を心から期待して、お祝いの言葉といたします。

鈴 葉

発団20周年記念に寄せて

中野地区協議会長 田 尻 紀 夫
東京地区副委員長

発団20周年おめでとうございます。

団・育成会の皆様や隊指導者が御苦労とたゆまぬ努力で、ご両親の援助を得て、スカウト達の育成に尽された巧業はすばらしいと思います。スカウト1人1人がスカウト活動を通じて良き社会人となり、世界の中で活躍している姿を見るにつけ、ボーイスカウト中野第7団の伝統と力強い息吹を感じます。

今のスカウト達諸君も、伝統を受け継いで活発な活動を続けて下さい。スカウト活動は、自発活動です。自ら進んでスカウティングをしましょう。隊長や隊指導者はこれを受けて、魅力あるプログラムを開発する。スカウトの心を湧か立たせることが必要になって来ています。

人格・技能・健康・奉仕・この四本の柱を皆さんとよりよい個人に育てあげて下さい。中野7団のスカウトのさびさびした態度を見ると、いつも「よし、やっているな。」と私は感心して見えています。

20年は単なる節目かもしれませんが、これを全員で祝って、次の大きな節目をめざして、楽しいスカウト活動を続けて下さい。

中野第7団 いやさか、赤栄

20周年 本当におめでとう。 感謝

スカウティングの更なるご発展を

中野第10団委員長 伊 藤 和 美

中野第7団の発団20周年を心からお祝い申し上げます。

貴団が東京第257団として誕生したころは、日本もようやく戦争のいたでから立ち直り、東京オリンピックを契機としていよいよ力強い動きへと変わったころでした。

其の頃ボーイスカウト運動もかなり広がりを見せており、東京都内での団数もかなり増加しておりました。然し、中野区内に於てはまだ6ヶ団ぐらしかなく、新井薬師町辺を中心とした団の設立を望む声に応えてつくられたのが中野第7団だけでした。

団は、高橋園子団委員長を中心にして団委員会が構成され、168団から移ってきたシニアを中心に、ボーイ隊・カブ隊と発展していきました。特に発団当初からの10年間ぐらいは、高橋園子団委員長のご苦労は並大抵のものではなく、現在の第7団があるのは、高橋園子団委員長が在ったればこそといっても過言ではありません。

団は設立当初からスカウティングの本質をいつも見極め、真実路線を旨として育ててまいりましたが、その中から若い、すばらしいリーダーが生まれ、設立の心を受け継ぎ更に団を繁栄に導く活動がされていることは、誠に喜びにたえないところであります。

其の後は中野10団を分封させ、共に切磋琢磨し合っていることははずでにご存知の通りでございます。

20年という才月は、スカウティングをより深めていくための通過点にすぎないと思います。この節目を一つの契機として、更に一層の発展を遂げられますよう、発団当時にかかわりあった一員として心からお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

鈴 葉

序 章	1
Ⅰ 創 設 期	
概 要	3
1965年～1968年	3
1969年	7
1970年	10
Ⅱ 発 展 期	
概 要	15
1971年	16
1972年	18
1973年	19
1974年	23
1975年	25
1976年	28
1977年	32
Ⅲ 熟 成 期	
概 要	39
1978年	40
1979年	44
1980年	49
1981年	56
1982年	63
1983年	72
1984年	82
1985年	91
Ⅳ 付 録	

三 雨

それは真夏の 暑い夜 野営地の軽井沢から突然7名のシニアスカウト全員が
帰隊しました。

彼等はリュックの他に大きな苦痛を背負って帰って来たのです。それは自
分達の納得出来るスカウト活動をという真剣な願いなのです。そこから長い旅の
道が始まり決して平坦なものではありませんでした。

ボーイスカウトに対する若い熱心な熱い情熱だけで歩み始めたのです。彼等の
希望する納得出来るスカウト活動を行うためにはどんな障害にも耐え積極的に果
り越えるという決意のもとに現在東京連盟事務局長の武田次夫先生に御指導を仰
ぎ新井地区に新設団を作る事になりました。

御紹介をいただいた当時新井小学校の伊藤先生に隊長をお願いいたし、ネット
一つない何のバックもたない我々はまだ7名のスカウトの力と伊藤隊長とを柱
にして動き出したのです。

経年曲折の末に団の登録も完了しここにボーイスカウト東京第257団(現中
野第7団)という新設団が誕生しました。

昭和40年6月11日の事でございます。武田先生の深い御理解ある御指導と
地区の諸先生方並びに多くの方々御援助により現に角今日に至りました。

長い長い苦難の月日だったのです。然しその後新入隊員のスカウト達は第257
団から第7団へとうけつがれた底を流れるスカウト活動に対する強い意志を大事
に守り素晴らしいスカウトに成長するべく訓練に励んでおります。

一体ボーイスカウト活動は何なのか 生 死 の 間 を生きる人間の自分の生
を肯定し、やがておとずれる自然界の法則である死をも肯定出来る心の昇華を求
めながら互いの生命を大切に守って生きるルールの習慣性の訓練と思えます。

汗ちかいとやぐそく、おきてとさだめです。人間は独りでは生きる事は出来
ない、手をつなぎ奉仕持ち(いつくしみ)の心をもって生きる事に怠る事なく
努力と忍耐を希望します。

これまでの武田先生を始め多くの方々御指導、御援助を心から感謝申し上げます。

券 栄

ボーイスカウト東京連盟 中野第7団

育成会長 高 橋 園 子

中野 7 団
団委員長 高橋 宏 人

一言「20年」と言うに私にとっては人生の大部分を占める歴史であります。

生まれたばかりの子は20才に、20才の青年は中年に、中年は老い、もうすでに亡くなられた年寄りもいらっしゃる事と思います。このように人生の一時期、しかも20年という歳月を、この7団でスカウト活動を実践してこられたことは、私の人生経験のうち最もすばらしい経験だったと言っても過言ではありません。

20年間、言葉では言い尽くせない程、その思い出が頭の中にぎっしりと詰まっています。楽しかった事、苦しかった事、辛かった事、嬉しかった事、悔けなかった事、どれ一つとってもはっきりおぼえている事は全てに前向きな気持ちで誠実にその場面場面に対応したからだと思っています。

20年前、257団(7団の前身)として発団した当時、私はシニアスカウトでした。何んにもわからない一スカウトが、今はなんとか一人で人生を着実に歩きはじめることが出来るまでになりました。

このスカウト活動から得たものは私を支えているバックボーンの大きな要素であることは言うまでもありません。それではそのスカウト活動から得たものとは何んであったのか………今までの私の長い経験からお話しさせていただくと、それは「奉仕」であると思います。つまり他の人を幸せにしない限り自分も幸せにはならないという事です。

このことは人が生きる上でもっとも基本的な事であること(原点)が理解できるまでになったのです。ボーイスカウト活動というのは本当にすばらしい活動であります。

又、私にとっては感謝の気持ちで一杯です。

ベーデン・パウエル氏の最初のメッセージに「幸福を得る本当の道は、他の人々に幸福を与えることによって得られるものです。」とありますようにやはりまちがってはいないと思っております。

今後私の力が尽きるまで、この気持ちを忘れずにスカウト活動に邁進したいと思っております。

I. 創設期

概 要 (1965~68)

1 創設期('64 ~ '70)

1965年6月11日、新井小・哲学堂地域を中心とした東京第257団は産声をあげました。

高橋園子団委員長、伊藤隊長、スカウト7人という小人数でしたが、真のスカウティングを目指して皆んなの心は希望に燃えていました。

岡山、朝霧での日本ジャンボリー、そして朝霧の世界ジャンボリーへの参加や、野営、合営を通じてスカウト進も顕えられ、団の基盤が固まってきました。

そして何よりも、「困難に立ち向かう」七団スピリットが醸成された時代でした。

1966~68概要

1966年には第4回日本ジャンボリーが岡山で行われ、まだ発足したばかりの257団からも数名が派遣され高橋園子団委員長(当時高校生)も参加しました。

また、ジャンボリーとは別に合同訓練も自衛隊の講習場を使って行われました。

1967年になると前年に発足したC S隊、B S隊員に本格的なプログラムが開始され、C S隊は埼玉県秩父の武甲山で合営を行いました。現在では石灰岩の採石で荒れ果てていますが、当時は採石もそれほど進んではおらず、4日間快速に過ごせました。B S隊は大島で初めてのキャンプを行いました。今ではもう完全に観光地化されていますが、当時はボーイスカウトの訓練に使えるようなキャンプ場も存在していました。因みにこのキャンプでは高橋園子委員長の他に福岡C S隊隊長もスカウトとして参加していました。

1968年はB S隊は戸隠でキャンプを行いました。上記2名の他に武蔵野人現S S隊長も参加しました。(C S隊については不明)またこの年、発団3周年の記念式典が新井小学校で行われました。

岡山ジャンボリー（1966.8：岡山県日本原）

約3万人のスカウトが参加



東京郊外の森の中、西部地区のボーイスカウトが集まる合同訓練です。大きなやぐらをまつ作って、レインジャーをやっている所です。西部地区のボーイスカウトが集まっただけにスケールの大きなものでした。



4年に一度のボーイスカウトの祭典「ジャンボリー」。中央の2人の前に「257」の番号章。左側が柴田隊長、右が藤崎隊付です。黒のタンダラスできめてかかれば都会のボーイスカウトに見られたでしょう。



C S隊免足後のおそらく一番最初の記念すべき写真です。最前列に柴田隊長、最後列には初嶋現C S隊長、篠朝現見10回B S隊長の顔も見えます。初嶋隊長によれば、この時5年生だったにもかかわらず、ボーイスカウトの服装をしていたそうです。

1967年

1967年C S隊

武甲山舎営

埼玉県武甲山でのカブ舎営です。柴田隊長、和智副隊長を中心にみんなで作ったスタッフです。後方に3人組のダンサーが写っていますが、7団ではめずらしい20才前後のお姉さん達が、カブの子供達をとてよく世話をしてくれました。



カブの舎営では、必ず昼寝をしていました。午前中のエネルギー消耗分をこの昼寝でカバーして、これから続くハードなメニューをこなして行くのです。最近のカブの舎営ではこの昼寝はありません。今のカブの子供達から見ればともうらやましい写真だと思います。



257団免田 3周年記念式典



これは、みんなで海軍パンクを上手に改造してインディアンに衣装しているところです。このかわいいインディアンの中にも現在はこわいリーダーになっている人も混じっています。

〈C S隊高尾山ハイキング〉

お弁当を食べた後でしょうか“一人の象さん”を飾っているところ、先頭は柴田隊長、後ろは高橋園子団長（現育成会会長）です。



〈B S隊戸隠キャンプ〉

一テントサイトにて（遊は不明）一円してことはないリーダーがカメラを向けたらスカウトがポーズをとった。ただそれだけのこと。

1969年 概要

発団5周年を迎えたこの年は、色々な意味で後のスカウティング活動に大きな前進を見せる年になりました。B S隊では伊藤隊長、高橋、兼崎両副長、C S隊では、柴田隊長、和智副長、北村デンマザーをそれぞれ中心として、隊の運営を行っていました。

B S隊はまだまだ夏キャンプ中心の年間プログラムではありましたが、その中で初めてバイオニアリングを行ったりして、だんだんと充実したプログラムになっていきました。特にこの年の夏のキャンプは全期間が雨となりましたが、其中でスカウト達は自然の厳しさに打ち勝って一人の病人も出さずに全日程をこなすことができました。このことはスカウトにとってはもちろんのこと、リーダーにとっても非常に貴重な体験となりました。そういう意味でこの年は「7月30ピリット」の嵐となった年でありましょう。

B S隊プログラム

- | | |
|-------------------|--------------|
| 4月……入 隊 式 | 1月……雪中訓練 |
| 5月……5月キャンプ | 3月……年間訓練の総点検 |
| 6月……5周年記念式典 | |
| 8月……夏季キャンプ（長野県戸隠） | |
| 10月……ハイキング | |
| 12月……サヨナラ会 | |



雨の中のバイオニアリング（信号塔作り）全員一丸となって我団はじめての試みに挑戦、6時間もかかってやっと出来上がり記念撮影をしました。この頃から、実力の7団（当時257団）の片鱗をのぞかせています。（補材法は全員が習得したもの）



バスをチャーターし、荷物・人、一緒にキャンプへ行くのが当時のやり方で、バスの中ではいつも大騒ぎでした。伊藤隊長も若々しい



食事前の配給風景。このころはリーダーが少なかったため、高橋隊長自らが各班に配給を行ない、何でもやらざるを得ませんでした。休む暇が無く神経がいつもビリビリしていました。【本人談】



今回のキャンプは全期間雨で、食事がなかなかできず大変でした。しかし、いつも一番早く火をつけ食事をするのはこのハヤブサ班でした。火をつけているのは現在の副団長。「技術はダメでもメシが一番のハヤブサ班だった」本人の話。



ハイキングに行く前のオーダーからの注意事項の説明。スカウト全体に放牧がピークになってきており、ここが一番のがんばりどころ。今までのキャンプの中でも一・二を争う難しいキャンプであり、このキャンプを経験したスカウトはより一層たくましくなりました。現在の高橋団委員長、石森隊長、武藤隊長、飯沼副長、田村副長が当時の参加メンバーです。

1970年概要

この年は静岡県6郡高原にて第5回日本ジャンボリーが開催されました。我が257団でもジャンボリーに向けて、何回もキャンプやハイキングを行いました。その中でも5月に行った各団の班キャンプでは、今までに無かった新しいプログラムに挑戦したりしてその意気込みが感じられます。これらのプログラムを消化したスカウト達は7月のキャンプ、そして8月のジャンボリーと如何無く実力を発揮し、これらのイベントを経験したスカウト達はひと回りもふた回りも成長しました。9月には各団の班長の引き継ぎが行われ10月の班キャンプや班ハイタと新しい班長の元でスカウト活動に励みました。12月のサヨナラ会では初めて年間最優秀班が表彰され、後のスカウトにとってこの賞がスカウト活動の大きな励みになりました。年が明けた1月は団でもちつきを行い、皆苦しくなるほどお餅を食べました。何かと忙しい1年間でしたが、発団6周年を追い万幸順調に進み現在の7団のベースとなるものが確立された年と言うことが出来ます。

プログラム

4月……ハイキング	8月……5NJ
5月……班キャンプ	10月……ハイキング・G・Bハイタ
6月……G・Bキャンプ	12月……サヨナラ会
7月……夏キャンプ・パイオニア	1月……もちつき



第5回日本ジャンボリーでのスナップ。各国からの親戚隊だったのでなかなか大変だったが、みんな楽しく過ごすことができました。

月の輪キャンプ

賀毛キャンプ場の一場面。
上道前にはキャンプを行っていました。



野辺山キャンプ



立ちカマドと食器棚を組み合わせた工作物。竹とロープで作りましたものです。右側に煮炊きをし、左側に食器を片付けておけるよう工夫されています。



生きたコウツトリの首を切り、調理することに挑戦。
写真手前の中田君「お前も首をとっちゃろぞ」とおどかされています。

ニワトリの断首場面。伊藤隊長を含めて、真剣そのものでした。

首を切ったとたん血がたくさん出たため、びっくりしたスカウトが手を震えてしまった。するとニワトリは首が加いままキャンプ場を走り回ってしまい、最後に餌を1割産みおとして絶命したというエピソードがありました。



羽をむしってみると、非常にやせたニワトリ。この宴や、断首場面を見ると、とても肉など食べられる心境ではなくなってしまうスカウトもいました。「おいしい、おいしい」と人の分まで食べたスカウトもいました。

賀正四園のイベントでした。



新春パレード (CS・BS)



寒風の中明るく楽しく行進しました。
みんな元気!!

集合したスカウト連。当時制服は兵輪をまくりあげて着用していました。



「スキー訓練」



希望者を集めての初めてのスキー訓練。初心者ばかりで、教える方も習う方も大変でした。
夜、みんなで風呂にはいったのも美しい思い出。(キャンプでは風呂にはいらないため)



このへっぴり腰は鈴木隊長。初めてのスキーで緊張してしまいました。黄色いゾーグル、ひもで結ぶスキー靴、分厚いセーターの上にバラバラのウィンドブレーカー等、今では見られぬファッションです。

Ⅱ. 発展期

高橋団委員長、CS隊北村隊長、BS隊高橋・榎崎隊長、SS隊伊藤隊長というリーダー陣で、257回は発展の時を迎えました。

この頃になると、スカウトから隊付に上進した者も多くいました。我が団の隊付は隊集会やハイキング・キャンプの企画・下見・運営等かなりの部分の仕事任せながら、リーダーを補佐する役割を持っています。

つまり、リーダーが全員スカウト経験者という中野7団の形骸が徐々に回って時期と言えます。

また、当時から初まった行事としては、

- ① バイオニア……団で丸太を購入し、キャンプで必ずバイオニア訓練を行なうようになりました。作ったものとしては、信号塔、橋、ゲート家があげられます。
- ② キックオフ……年明け初1回目の隊集会は、ハイキングに出かけることにしました。班長宛に暗号で年賀状を発送し、集合時間や場所を連絡するようになっていました。
- ③ かがり火奉仕……大晦日から元旦にかけて、明神神宮の参道整備を行っていました。厳寒の中、半袖半ズボンでの整備は大変でした。残念ながら、渋谷地区の意向により中野地区は参加できなくなり、現在は初日の出オーブナーナイトハイクに切りかわっています。
- ④ 隊付の自主活動も大変喜んで、練材法、地図とコンパス、野営法等のテキストも次々と作成され、訓練に使われていました。

スカウトの人数も増え、質量共に訓練が充実してきた時代でした。

1971年度

1971年 概要

この年B8隊は、高橋隊長が多忙なため夏キャンプはあまり遠くへ行けず、東京都羽村で行いました。スカウト達には少々不満のあるものでしたが、プログラムの充実がそんなものをいつの間にか忘れさせていました。(東京都郊外の夏キャンプが出来ること自体、現在の常識からすれば驚きです。)

前年の日本ジャンボリーの興奮が未ださめやらないこの年に、第13回世界ジャンボリーが同じ朝霧高原で開催されました。我が団もジャンボリーに見学に行きましたが、中には2年連続しかも日本、世界と二つのジャンボリーに参加したラッキーなスカウトもいました。

この年は今まで以上にスカウト自身の企画によるハイキングやキャンプなどが盛り入れられ、知らず識らずのうちにスカウト達に実力が身につき、益々活動が充実してきました。1月には霧ヶ峰に於いてスキー訓練を実施しましたが、今まで一度もスキーを履いた事の無いかなりのスカウトにとっても、日頃の野外訓練とはまた一味違ったこの訓練を結構楽しんでいました。

——夏期野営：東京都羽村町——

「ハヤブサ班」



高橋隊長が忙しくて遠くでキャンプをすることが出来なかったため、東京都外の西多摩郡羽村でのキャンプでした。左側でイスに座っているのは、現在カブ隊の副隊長で、今では考えられないような体帯をしています。さらに右から2人目は現ボーイ隊の三沢隊長、その右が現カブ隊の田村隊長。みんなまだかわいい顔をしています。

「立かまど」



立かまどは柳りかまどとは違って立ったまま炊事をするものです。立ちかまどに慣れてきて火がよく燃えて食事の仕度もさぞかし楽だったでしょう。

中央でやかんを持っている高シニア隊長の武蔵くんも若々しい。

<サヨナラ会：新井小>

「展示物」



年の瀬に行なわれたサヨナラ会は毎年恒例となっていて、父兄の方々も参加されて、スカウト全員が楽しい一日を過ごします。この写真は父兄の方々がスカウトの作品や写真を真剣に見学しているところです。

1972年 概要(BS隊)

前年はスカウト自身による企画のプログラムが中心でしたが、この年は隊単会での活動が中心となりスカウト達は野外生活以外での様々な技術や知識を吸収してより一歩の実力を身につけました。しかしその反面、集会の欠席者の数も増えてくるという一面も見せ始めました。そんな中で夏キャンプは長野県野辺山高原で行いましたが、キャンプの途中で帰京する者が数名出て、班の中には残った者が一人とか二人というところもありました。しかしそこで持ち前の技能とガッツで残りの日程をこなした優秀なスカウトがいたのは、何ともしんどい限りであります。

〔主な行事〕

4月	ハイキング(大岳山)	1月	日の丸行進
9月	ソサドボール大会(新井小)		もちつき
12月	サオナラ会(新井小)	2月	技能コンテスト

——ボーイ隊夏CAMP：長野県野辺山キャンプ場にて——



〈レインジャー訓練〉

写っているのは、現ボーイ隊、鈴木隊長。見よ、農作業で鍛えたこのスタイルとポーズを。(この意味がわかる人は相当通ですよ。)

実は訓練の前に高橋隊長(現団委員長)が命綱のテストをした際に事故発生。何と原因は命綱が長すぎたため、手を放した瞬間に地面に叩きつけられるという事件でした。



〈ハイキング〉

飯盛山に迫るハイタ。当時のキャンプは1週間6泊7日でハイキングはその4日目に実施された。このキャンプでは受験勉強を理由に帰るスカウトが多く、全員での活動は、こままと残念な限り、ちなみに1人だけになってしまった班も2班ありました。



〈パイニア訓練〉

はっきり言って、今の信号塔に較べれば、ずいぶんとみすばらしい信号塔ですが、当時は保有している丸太の数も少なかったので、リーダーサイトのテーブルやベンチを一時的に流用したり、林の奥の方へ分け入りて木を切り倒したりして何とか作り上げていました。見た目は真逆でしたが、信号塔を作りあげる情熱は、決して今に較べて見劣りはしません。

1973年 概要

〔CS隊〕5月には五日市にある秋川の支流の益瀬川にハイキングに行って、河原でゲームなどをやりました。11月の三峰山ハイキングはちょうど紅葉の季節と重って山々の紅葉がとても美しかったハイキングでした。しかし、ロープウェイに乗るために1時間以上待たされ、スカウト達は大分くたびれた様子でした。3月には月の輪キャンプを佐藤様ヶ丘にある明治記念館で行いました。

〔BS隊〕8月の高の丸高原での夏キャンプで話題になったのは笹筒づくりでした。リーダーの指示どりに作ったら、前がでさずに砂糖の固まりが出来てしまいました。リーダーの人は蓋に作り方を教わったんでしょよネ。また同じ笹の話ですが、ハイキングの時道徳サインが生い茂る笹の葉の裏に書かれていて、そんなのは誰にも見つけられる筈がなくスカウト達は路頭に迷える子手になったという裏話もあります。

☆ 高の丸キャンプ

「スワロー班」



期間中は雨と霧とに悩まされ、ストックアップがぬれっぱなしでした。

現在はこのスワロー班出身のリーダーは一人も残っていません。

「ホーク班」



「高の丸」キャンプの優秀班。最後まで一人も欠けずよくガンバリました。現在のボーイ隊の鈴木隊長はホーク班の班長で一番左の班旗を持っている人です。この時代はホーク班の全盛期で2年連続優秀班を取りました。

「ハヤブサ班」



「タイガー班」



朝の点検後のスナップ。護君の左手の中には朝食後のデザート「せいろう丸」が1人2つずつ8ヶ入っています。この班は初級を2人もかかえたりえ少人数ながらよくガンバリました。

夕食後のココロクを作っていた時油の中に火が入り、焼く山火事。リーダー消防隊の高橋隊長は一早く 소화器を持って現場へ直行しましたが、途中アタクンでスプーンコロン。大事には至りませんでした。

☆ 雨の先ヶキャンプのメニュー

	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	
朝	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(だし) 惣菜(バナナ) カンヅメ 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(ワカメ) ハム・ソーダ 漬物 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(キャベツ) ソーダ 梅のり・漬物 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(トウモロコシ) 自製薬 梅のり 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(長ネギ) アジの干物 カンヅメ 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん みそ汁(長ネギ) アジの干物 カンヅメ 	
昼	<ul style="list-style-type: none"> 弁当 	<ul style="list-style-type: none"> カレーライス カンヅメ 漬物 	<ul style="list-style-type: none"> カレーライス ハンバーグ ポテトジュ 	<ul style="list-style-type: none"> 梅子汁 お笑い物 漬物 	<ul style="list-style-type: none"> 弁当 カンヅメ 	<ul style="list-style-type: none"> 弁当 アルミホイム料理 牛乳、紅豆 	
夜	<ul style="list-style-type: none"> カレーライス ココロク 漬物 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん ココロク 料理 漬物 	<ul style="list-style-type: none"> 夕食会 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん しょうが焼 キャベツ 	<ul style="list-style-type: none"> ごはん ステーキ 漬物 		
朝食	<ul style="list-style-type: none"> りんご 牛乳 	<ul style="list-style-type: none"> スイカ ききあめ 	<ul style="list-style-type: none"> スイカ ききあめ 	<ul style="list-style-type: none"> ダンボ ブドウ 	<ul style="list-style-type: none"> りんご 		

○3日目の朝食での話ですが「ききあめ」を行ろうということになり、リーダーは「黒砂糖を水に溶いて、かきまぜながら炒めるとあめになります」と指示しました。ところが結果は見るも無残/なんと、ただの砂糖になってしまいました。

CS ハイタ



＜ハイキング＞

五日市の益屋川へ行つた帰り沢戸橋付近の砂利置場。先頭を歩いているのは護守副隊長。そして女の子のリーダーが北村隊長。今日のお弁当はおいしかったかな。

秩父の三輪山へハイキングに行った時のスナップで今にしてみれば歩いて登らずにロープウェイを使ったなんて信じられないことです。確か1時間以上も待ってやっとロープウェイに乗ったと覚えていますが結果的には歩いて登っても同じだったような気がします。

でも、ロープウェイから見た木々の紅葉はとても



きれいで、まるで真りの山々に色々な色を散りばめたようでした。

一番下の左側に写っているのが、現ボーイ隊副隊長野尻君です。



1974年 概要

4月にはB 8隊の新入隊員歓迎ハイキングがあり、コースは嵐山〜大岳山〜馬頭刈山という超ハードコースであり時間にかなり、最後はバスに間に合わずバス停まで走るといった一幕もありました。6月C 8隊は社会科見学で、神田にある交通博物館へ行きました。色々な客車、機関車などや、昔の鉄道の歴史など、近くにはありながら以外と行ったことのないせいか興味深しんして、楽しい一日を過ごすことができました。この年のキャンプはC 8隊、B 8隊共に鶯ヶ峰キャンプ場で行われ、C 8隊はヒュッテ、B 8隊はキャンプ場を使いました。同じキャンプ場なので、C 8隊のプログラムが空いている時にダンサーが自分の班に通うなんていう珍しい光景も見られました。目の前に鶯ヶ峰がそびえ、辺り一面ずーっと平原でとにかく美しい所でした。

— BS 夏キャンプ わしが経 —

＜朝もやの中の朝食＞



はやぶさ原の朝食準備風景です。見渡す限りの草原と、なだらかな丘の黄色に敷きつめられた日光ヶ原のじゅうたんなど、素晴らしい景色のキャンプ地でした。国分村との境界線付近だった為、惣村番に二度もテントの移動を命じられました。

＜ワシ班の雄姿＞



ワイドゲーム〜ゼットキ、ボリバン、シアソビの優勝者。ゲームでは無敵の強さをほこったワシ班は、朝・夜の点検でも地味に待点を置きね、このキャンプでの優秀班もりました。

＜G・B・CAMP (G・B:のソロー 田共、決兵)＞



史蹟探検 丘明治記念館内にて。これは、昼食後のひとときなんです。何と云ってもここは新館になってお隣さまが顔を出すのが10:00頃、そして3:00にはもう見えなくなるという家まで帰っばいところでした。

これはヤマガタ会でのアトラクション丸太切り競争。当時としては超豪華賞品だったコースク(今でいうカルピス)がかかっているとおあって、カメラを向けても誰一人ポーズを取る者もいません。従って誰が一生けん命切っているかは不明。
P.S.: スカウト諸君、今の賞品の豪華さをありがたく思い出さなさい!



湯の丸キャンプの感想

ハヤブサ班 真

今年のキャンプは、天候にはあまりめぐまれなく、ジメジメしていた。そのためテントや寝袋等が、あまりかわかないので乾燥ができなく、朝などなかなかおさらげなかった。

また雨がふってめしがたけなかったり、朝つゆで衣服がぬれてしまったり、キャラバンの中がぐっしょりとぬれてしまったりした。水分をふんだく枯木はおりにくく、そして燃えにくいので始末が悪い。便所穴をはる時に、こまったことは、大きな石が3こも6こも出てくることだ。コンビでもなかなかとりだしにくく苦勞した。また去年のキャンプとちがひ、すぐ近くにトラップが来てくれなかったので、荷物上げにも手こずった。

わが班の反省としては、第1に最初の日、フライの中央の木にぬのなどをかぶせ、フライが破けるのを防ぐのを忘れていたこと。また、あまりあっちこっちがきれいではなかったこと。第2に開拓不十分であったこと。キャンプ中、木の根とか草の大きいものなどに何回足をひっかけたことか。キャンプが終わって20日ぐらいしてから旅行で湯の丸へもう一度行ってみたら、ホーク班のキャンプして開拓したあとがテキサスとのこっていたが、わがハヤブサ班は草ボーボーだった。(ここで隊に一言。隊のテントのカマドがうめてなかったのだ。)もう少し開拓しておけばキャンプがしやすかったと思う。



近くのロッジにお願いして、食料を仕入れてもらい、キャンプ地まで荷上げしていました。

彼は、リーダーの食事係をずっとしていました。

テーブルにあった、山本君の大好物のカムナを、片付ける為食べたばかりに山本君に食べいじめられました。カムナ君、御苦勞様!

—水泳大会—



本泳草の水中型服装脱訓練中の渋谷君

当時流行の撥パン・パルメーダーカットスタイルの上にズボンを着用した高苦しそう。毎年行なわれるこの訓練で、皆水泳草にチャレンジしました。



本泳大会が終わると、7団の夏も終わります。楽しかった夏休みや、この半年を振り返り、後半の活動準備を始めます。みんなひと回り大きくなったみたいですね。



シニアスカウトの競技で「ローマの戦車」に出場、1位の栄冠を手に入れました。

この写真は、ゴールしたのち各チームの戦車がパレードをしている所です。

その他、日頃の訓練の成果を発揮する数々の種目がありました。

BS隊は、夏キャンプを長野県細木平キャンプ場で行いました。このキャンプではアリに悩まされました。地面を掘りすべに大量のアリが発生するので、地面に灯油をまいてそれをもやしてアリを焼き殺すなんてことをやる程でした。5日間ぼちぼち晴れ渡るなど天候に恵まれたキャンプでした。1月には、今では毎年恒例になっているキャンプがこの年初めて行われました。



この年のカブ舎営は、長野県の信濃大町に近い山の中で行いました。上の二枚の写真は、みんなでキャンプリッジを作っている所です。左の写真では、綱綱を張るためにダンサーが苦勞している所です。右の写真では、そんな苦勞もどこかにとんでしまい、楽しく遊んでいる所です。



近くの鷹狩山へのハイキングでの1カットです。みんな長い棒を持っていますが、これは「鷹狩」にちなんで狩りをするゲームのために集めてきたものです。この日は相当暑かったため、ラッシュマットのスカウトや襟のスカウトも見られます。



この年ボーイ隊は、長野県の原木平という所でテントを張りました。この写真を見るととてもいいキャンプ場らしく見えますが、実は、土を掘ればアリの大群のため、地面を掘ってからテントを張ったり、夜中は近くの観光客の騒音(音楽)などという、あまりいい所とは言えなかったキャンプでした。

これも原木平でのひとコマです。朝の点検の後に写したもので、みんなすがすがしい顔をしています。左の班旗を持っているのは現在のC S隊黒坂副隊長です。みんなの元気な顔といい、制服がきれいな事といい、2日目の写真と思われます。



各団の大黒柱となるためには、みんなG・Bキャンプを経験しますが、このキャンプの特徴はマッチ二本と新聞紙半分で大をつけるなどといった楽しいものです。左の写真ではおやつ時間のくつろぎの一時です。左側でおいしそうにダンバを食べているのは、今や女子隊の副隊長です。

G・Bキャンプでの一枚です。みんな木を組んでいるのですが、これは立ちかまどを作っている所です。みんなカメラに向かって笑顔のポーズをとっていますが、右端のスカウトは、15kgはあるテントをかついでのポーズの苦勞がわかります。



※ 7 団式ダンバの作り方

材 料 : 小麦粉 砂糖 食べる棒(自分で探してきて作った物がBEST)

作り方 : 1 小麦粉と砂糖を入れた中に適量の水を入れ、よく粘る。

2 自分で持ち上げた棒に好きなだけ貼り付ける。

3 かまどの回りに置いて、全面を煎良くこがす。この時しょう油をぬると香りがいい。

味の方は、上の写真でもわかる様にキャンプでやるからこそおいしいもので、家で作ると何ともむなし味があります。

1976年 概要

B S隊では6月のBS地区ラリーに備え、4月はその特訓、5月は奥多摩へ実践を兼ねたハイキングに行きました。本書のラリーでは努力が実り一冊はベスト5に入りました。夏のキャンプはC S隊が長野県湯の丸高原、B S隊は同じ長野県の中山高原キャンプ場でそれぞれ行われました。中山高原キャンプ場は立木を切る許可が得られたので各班とも色々な工作物を作ることが出来ました。B S隊の10月の正丸峠ハイキングでは1日に二つのハイキングコースを登ってしまいました。と言うのは、一旦は正丸駅を下りてまた違う山に登り直すという極めてハードなものでした。

<BS>

夏期野営：中山高原

「現地人」



川口隊長より

「ついに見つけました。現地人です」

浮浪者のような汚たい格好をしていますが、現在のコブ隊の副長の黒根くんです。

「火付け」

この時、振りかまどよりドラム缶のかまどが流行しました。一生懸命火を付けているのはワシ田舎長の野尻くんです。このドラム缶のかまどは野尻くんが考え出し、この後3年間ぐらいはやり、他の班もまねするようになりました。



「立ちかまど作りの名人」



現在コブ隊の福嶋隊長は昔から手が器用で、暇さえあればいろいろな自然物でスプーンなど作っていました。この立ちかまども自慢の手先を生かして福嶋隊長が作ったものです。

この写真は福嶋隊長が火吹き竹で火をどンドン燃やしている所です。

「リーダー勢ぞろい」



このキャンプに参加したリーダー全員の勢ぞろいしてみんなでハイポーズ!!

左から、現カブ隊の福嶋隊長、ツェブ隊の武藤隊長、武藤隊長の弟、高橋団委員長、カブ隊の副部長、ボーイ隊の三沢隊長、「俺たちにまかせてくれ」

「ハイキング」

雨天の中ハイキングを行ないました。途中の森間で、餌で釣り竿を自然物で作り、えさは各人の弁当の米つぶや、おかずで魚を釣るということでした。しかし、各道楽した為何にも釣れませんでした。



「食事風景」



キャンプの中で餌が一番楽しみにしているのはこの食事をしている時です。いろいろと苦しい事もありますが、食事をしている時は何もかも忘れてしまいます。多少じゃがいもが平素えでも味付けが悪くても、野外での食事はおいしいものです。ちなみに右側で食べているのが現在のボーイ隊の酒井隊長です。

「死人」



10月10日の午前0時に中野駅前でスタートし、衣笠をめざして歩き初め、2日目の休憩で眠りながら、路上にて一眠りの一コマです。

右側の現在ボーイ隊の三沢隊長の体の横りに事故現場の時の白煙がひかれています。

「武山ロータリー」



目的地衣笠まであとわずか、この頃になると休憩時間が多くなり、次の電柱や信号などと10分間隔位に休んでいました。

写真では明るく元気な表情だが、足は動かさず、顔はひきつりながら歩行でしたが、見事100Km全行程完了しました。

この時の話はリーダー間に現在でも語られています。

1977年 概要

〔CS隊〕5月には野草の観察をしに五日市へ行きました。各組毎に植物の図鑑などを持って来て、それぞれ草の植物のスケッチをしたり、押し花を作ったりなどそれぞれ工夫が見られました。当時はカブキャンプをやる1ヶ月位前に北野神社で一泊の準備会営を行っていました。(この年が最後でした。)そして8月には本書のキャンプが山梨県丹波山村で行われました。獲獲りをする音が岩がぬるぬるして危険なので急降レインジャーに変わるといことがありました。10月には奥多摩にビタマツトに行きました。その月のテーマ「僕の名コック」に因んで飯食炊さんを行いました。多少倒飯が揚げたり、固かったりしましたがまずまずの出来と言ったところでしょか。12月のサヨナラ会では、毎年月の輪廻の結成が行われますが、この年は1月に月の輪だけのハイキングも行われました。

〔日8隊〕大きな行事は、8月に行われた夏キャンプと、鎌馬にある旧ドラッグハイック跡地(現在の志ヶ丘公園)でおこなわれた8月末の月キャンボリー、そして春秋のハイキングでした。夏キャンプは橋本葛原高原で行いました。キャンプ場周辺には伐採されたまま放置された木がたくさんあって、こと新に関しては何一つ不自由無く5日間各班共おいしい食事をつづることができました。

この年、中野地区の分封と分封とは隣家で言えば独立のようなものです。これによって団名が東京257団から中野7団に変わりました。)、続いて中野10団の分封と我が団によって大きな転換期となる年でした。

〔SS隊〕

SS隊の人員が少なくなってきたため、ドラゴン班、ハッパ班を合併し、新たに賑くオオトリ班を作り、班別章も新規作成。これは現在も使用している。

この年、SS隊のネッカチーフを作成。以前は、指導者と同じネッカチーフをしていたが、SS隊として、独自のものを作成した。

一主な活動一

◎夏季移動野営

8月14日～25日(11泊12日)115Km……中止
北郷道(洞爺～余市)、太平洋側から日本海側へ横断する計画をたてたが8月初め、市務山爆発のため、計画変更することになる。残念!!

8月16日～23日(7泊8日)
という訳で、新たな計画を立てる。
佐渡(両津～小木)60Km

◎地区SS活動

10月12日～13日
オーバーナイトハイック(東青柳～高円寺)50Km
257団で1位、2位、4位と好成绩であった。

〔西部地区キャンボリー：鎌馬区ドラッグハイック〕



8月の末に行われた西部地区最後の地区キャンボリー。場所は、今はもう団地のたくさん建っている光ヶ丘の団地群です。この写真は7団を中心として信号塔を作っているところです。昔は東京にもこんないい所があったんですね。

カブ隊からの上進者がいよいよボーイ隊へ合流する所です。上進者は前に一列に並び、班長に受け渡す所です。カブのカッコウの上進者達の顔の表情に注目してみんなコワイッます。



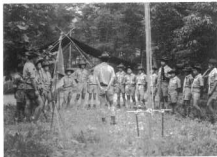
これも上進式での一コマですが、右側で何やら深刻なポーズをとっている、高橋隊長(現団委員長)ですが、このポーズは、隊長独自のいつもまじりのポーズです。

奥塩原キャンプ



この年は栃木県奥塩原キャンプ場での夏季野営でした。この写真は、シュルターという雨風をしのげる簡単な家（応急的なテント）を各組で作り、実際に上から水をかけて雨もりのテストをしている所です。中にいるのは当時ベガナス班班長の野尻副長です。

朝の朝礼で高橋隊長（現評議員長）が話をしている所です。みんなの真剣な表情は知られているのでしょうか？それともほめられているのでしょうか。この話の後に点検の演習と優秀班の発表があります。



順序は違いますが、朝礼の前の点検の1コマ。これはベガナス班で、重箱を持っているのが野尻副長。

その右どなりがなんと現ボーイ隊の佐藤副長様。「エッ？」「これ本当に大丈夫？」今のすがたからは思役出来ませんネ。



右の写真はキャンプファイヤーでの1コマです。楽しく歌って踊った後の建礼式の時の1カットで一番手前の青いボンチャが現在の野尻副長、1つおいてオレンジ色のボンチャが現在黒坂副長です。みんな隊長から「一統章」をもらっている所です。

小雨の中、行われたパイオニア。みんな体中ピシッピシッになりながら、信号塔を作りました。このパイオニアでは、突如のような事件がありました。完成後みんな一人ずつこの塔に登ったのですが最後に登った黒坂くんの時、写真右に見える縄ばしごが突然切れてしまい黒坂くんは上からまっさかさまでドスン！幸い大けがにはなりませんでした。みんな言わく、「エッ！危すぎるからだよ！」



☆パイオニア？

パイオニアとは何だろうか？これは、この年のボーイ隊の夏季キャンプの2日に行なわれたものです。簡単に言えばハイキングなのですが、ただハイキングとしてはあまりにも実がないので、映画の題名からとって付け付けたのです。内容はというと、リーダーが盗賊団に扮し、宝物（銀貨）をもって逃げ、それを皆さんと課題を解きながら追いかけて、一番早くつかまえた（目的地に着いた）班が勝ちということでした。課題は野帳や、（暗号作成方法の一種）暗号を解読したり、地図作業などをやりました。これらの課題はボーイスカウト活動の基本であり、7団のハイキングには必ず取り入れられています。



〔SS隊〕

移動キャンプの楽しみは、やっぱり食事。同行した鈴木くん（現在B S隊隊長）も、疲れた様子で昼食です。（18日布地町にて）

夕食を作っていると、町の子供達が集まって来た。この前泊地では、近くの方からすいゆを3個ももらった。食べきれず、翌日、背負って歩いたが、さすがに重かった。（21日、新保町、高森神社にて）



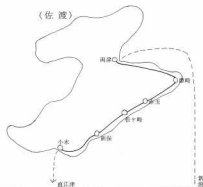
最終目的地、小木町へ到着の瞬間です。

みんな元気そうですが、実は、くたくたのはず。

（右より）太田 左知夫
（裏長）滝沢 与志雄（現在C S隊隊長）
（次長）橋 真（現在、中野10団）
雨宮 有
山崎 昌彦

夏季移動野営略地図

- 8月16日 〈車中一泊〉
- 17日 野崎キャンプ場
- 18日 赤玉神社
- 19日 松ヶ崎温泉
- 20日 *
- 21日 新保、高森神社
- 22日 小木町
- 23日 〈東京着〉



Ⅲ. 熟成期

77年の9月に今までの西武地区から中野地区が独立し、団名も東京第257団から現在の中野7団となりました。そして翌年、7団から分割して中野第10団が発足して、7団も新しい体制(団委員長:高橋園子、サブ隊長:福嶋和美、ボーイ隊長:高橋空人、シニア隊長:武藤敦人)となり、この時点でリーダーは全て当団でスカウト経験をしているという。他の団には無い特色を持った団となり、その流れは現在も続いています。

82年には、BS隊の高橋隊長より現在の鈴木隊長へと変わり、リーダーも若がえりました。この年の夏キャンプというのは有名な入笠山でした。鈴木隊長としては、隊長1回目のキャンプがとても大変なキャンプとなりました。

又、この頃よりボーイ隊のハイキングが発山一本から、都内の交通機関を利用した都内めぐりハイクというのを色々行いました。

これは、東京に住んでいるスカウト達も行った事のない所が数多くあり、なかなか評判でした。

そして今……………躍進し続けています。

テーマ	C	S	隊	テーマ	B	S	隊	その他
4月	新しい仲間	入隊式		B P 精神	初級訓練キャンプ			
5月	手作り	工作		野に山に	救急法・体力作り			中野地区発足記念式典
6月	足跡を遺え	ハイキング		雨にも負けず	ハイキング、 食事訓練			
7月	車 仕	テスト合宿		ウッドクラフト	バイオエア、 夏キャンプ			
8月	ブッシュマン	水泳、カブキャンプ		ハンドクラフト	水泳大会、O.L. 心あらたに			日本ジャンボリー、7NJ
9月	月の歴史	月の輪結成			班プロジェクト 自然愛護			
10月	食 祭	サンドイッチハイク		歩け歩け	ハイキング			赤い羽根、100kmハイク
11月	展 覧 会	自然物による工作		班 精 神	GBトレーニング 特修章&技能章			
12月	サヨナラ会	サヨナラ会		寒さに負けず	サヨナラ会準備			サヨナラ会・明治神宮
1月	新 年	新年ゲーム大会、 タコあげ		体力作り	キックオフ 体力測定			
2月	B・P祭	B・P似顔絵コン クール		チームワークその1	体力測定			
3月	反省と希望	上道式		チームワークその2	上道式 班プロジェクト			

1978年 概要

〔C S隊〕この年からC S隊の隊長が現在の加藤隊長に変わり、10班が分封したこともありリーダーのラインナップは現在のC S隊のベースとなりました。

5月は竹や焼酎を利用しておもち作りをしました。金属で作ったものとは違って何の色も染らなくても結構立派なものが出来ました。この年のカブキャンプは菅平で行いました。とにかく食事の量が多く、それがまた豪勢でスカウトはもちろんリーダーでさえも食べきれない程でした。10月には丹沢の水無川でサンドイッチハイクを行いました。当時はクッキングハイクという名称のハイキングはほとんど行われていなかったで、スカウト達には新鮮でおもしろかった様でした。その他この年は枯れ枝、落ち葉など自然物を使った工作の展覧会や、キックオフは代々木公園でたこあげ、B P似顔絵コンクール(B P:バーデン・パウエル、ボーイスカウトの創始者)などを行いました。

〔B S〕この年の夏キャンプは、日光小倉山キャンプ場で行われました。東京から電車で2時間余りと地理的条件には恵まれていましたが、雨が多くて虹に囲まれたキャンプでした。また中日のハイキングでは一旅行方不明になるというハプニングもありました。

BC夏季野営：日光小倉山キャンプ場

〔セレモニー〕



夏キャンプの閉会セレモニーのひとつ。
まだみんな到着して間もないため、これからの不安と期待がいっぱいです。

〔バイオエア〕



丸太と縄縄を使ってのバイオエアリング。今回は野営地からみんなのでトラックに乗り、河原での構作りでした。
この時はとても暑かったのですが、完成してのこの一枚では、みんな笑顔です。

〔ハイキング〕



鳩山山へのハイキング・山頂でのスナック。リーダーより子供達の方が元気良く、先発のリーダーはとても苦労します。
後発の野尻隊付が道をまちがえてしまい、あざみ繁る野原を突っ切ったのは今でも語り草です。



3日目の夜、みんなが楽しみにしている夕食会。
中野7団特注の鉄板を使ってやきそばを作っているところです。隊付やリーダーは、着さと標たさと織いながら調理をします。高橋隊長が手に持っているのは「四人食器」と呼ばれているアルミ製の食器です。

〔大 宮 火〕



最後の夜のプログラム、大宮火。途中でホームシックにかかったスカウトも、いつもは冷静な(?)リーダーも、フッヤケを飲んで大騒ぎをします。スカウト達は、それぞれの出し物に期待を高めています。

☆点 検

この年誌の中でよく点検という言葉が出てきます。点検とはキャンプの中で1日に朝夜2回行なわれているものです。夜の点検はスカウトが消灯した後、班サイトの安全性などをチェックし、朝の点検では、班員の状態などをチェックして、その後の朝礼で2度の点検の得点が高かった班が優秀として表彰します。ちなみに点検の項目は、①サイト全体の配置と設計、②テント・フライ、③工作、④工具管理、⑤炊事場(工作配置)、⑥炊事場管理、⑦安全・衛生(便所その他)、⑧整理整頓、⑨規律、⑩チームワーク、以上10項目で評価されます。

点検の大きな目的は、リーダーが班員の健康状態やチームワーク、サイト作りへの意識などを把握することです。

年 間 プ ロ グ ラ ム

	テーマ	C S	テーマ	B S	その他
4月	カブ号の出発	入隊式	スカウト精神	初級訓練キャンプ	
5月	ひみつ信号Relay	ハイキング	自然と共に	ハイキング 地図とコンパス	
6月	キャンプクック	ボート乗り	雨	炊事訓練 野外料理	地区ラリー
7月	宝島へつぎ	準備合宿	夏が来た	パイオニア、精材法	
8月	ぼくらの宝	夏季キャンプ	フロンティア精神	夏キャンプ、水泳大会	
9月	ファイブレー	野球大会	月 見	班プロジェクト (テーマ:木工)	中野まつりパレード
10月	キャンプカブ	キャンプハイク	走れスカウト	ハイキング、 実践救急法	スカウトの集い 赤い羽根
11月	郷 里 家	年賀状版画作り	冬が来た	G・Bトレーニング 特修章&技能章	
12月	スノーブリッジ	チヨナラ会	くよくよな	腕力・歌協力養成	明治神宮、サヨナラ会
1月	モンキージャック	竹馬作り	聖 明	キャンプ 体力作り	
2月	ウインタースポーツ	アイススケート	立 春	体力作り 観劇・計画	
3月	発明王エジソン	動くおもちゃ作り 上進式	つ ば さ	上進式 班プロジェクト(啓明)	

1979年 概要

〔CS隊〕6月、ボート訓練を千鳥ヶ淵で行いました。訓練といっても組対抗でボートの競争をする位のもので、皆元氣一杯にオールを漕いだため水しぶきでぐっしょり濡れてしまいました。8月のキャンプは長野県和歌山で行いました。天然の黒曜石がたくさんまわりにあったので、ゴルドラッシュならぬ黒曜石ラッシュになってしまいました。又、各組毎に探検ハイキングと名付けて山の中を自由に探検するというのがスカウト達には面白かった様です。1月には本物の竹馬を使って竹馬作りしましたが、意外にうまく乗れないスカウトが多く、皆一生懸命に練習していました。

その他のプログラム

- 10月 キャンプハイク(青箱)
- 12月 年賀状の版画作り(ゴムの板を使って。)
- 2月 アイススケート(国立競技場スケートリンク)
- 3月 ホームス信号発信器作り

〔BS〕この年の夏キャンプは長野県小諸市の茂岡山麓にある清水キャンプ場で行われました。このキャンプでのパイオニアリングは三本の立木を利用して高さ約5mのところの小屋掛けを作ることでした。できあがった日の機は班長、次長のスカウトに朝上生活を体験させ、それはスカウト達にとって深い印象に残るものでした。また今でも語り草になる「タライの落としどん事件」(後述)もこのキャンプで起こりました。

【食 事】



「食べたー写真はいくら早く飯にしてくれー」
 現吉川隊付、小山隊付の幼い顔が見えます。
 アルバイトのおねえさんが、かわいかったとリーダーには好評でした。

【ハイキング：霧ヶ峰】



キャンプに来て3日目に行なわれた霧ヶ峰のハイキング。天候にも恵まれましたが、2組だけ迷子になり、写真右にいる現カブ隊の小山副長補や他のリーダー達が汗だくになり、1時間位走り回って探しました。ちなみにこの写真の組は、ハイキングで優勝した組です。

★カブキャンプ

カブキャンプの目的とは、しおりによれば「カブキャンプ生活を通じてカブスカウトのきだめとやくそくを実行し、仲間との友情を深めるとともに組内のチームワークを高める」というように、基本的にはボーイ隊のキャンプとは相違ありません。ただボーイ隊は全て野外での生活ですが、カブ隊は屋内という所に違いが生じてきます。例えば、民家や旅館に泊まるため、金額が高い、他の一般人といっしょになるという欠点があります。しかし、その分利点もあります。まず風呂に入れること、ふとんで寝られること、食事・天気心配がいらないこと、などなど。

カブキャンプというのは、案に見えますが、年齢が幼いだけに安全面を考えるとこのような措置になるのです。このカブキャンプでカブスカウトとして成長し、ボーイ隊へと上進していくのです。



みんなで力をあわせて焼そば作り。
 「我ががらいい味だなあー」
 「ばかいい、まずいよ。こんなもの食うためにハイキングに来たんじゃないぞ」



「表君よそ見して人參を切っている自分の指もみじん切りにしちゃうぞ」
 「大きさが揃いでも、お腹にはいれどじだ。」

<BS> 夏キャンプ：小諸市清水キャンプ場

〔ハイオ・アリアンド〕



今回のハイオ・アリアンドでは、3本の立木を柱にして空中に小屋を作りました。

（このキャンプで始めて挑戦/この脱スカウト達はこの小屋に泊まりましたが、下に落ちる不安と疑問の思い出で、とてもハッスルした一夜でした。

〔レインジャー〕

レインジャー訓練での一枚。ロープの張りが甘かったため、たるんでしまい、バランスをくずして苦しんでいる鈴木班長。（ベアー班）例では、高野次長が面白がって見えています。



〔火つけゲーム〕



地上30cmのところに綱引を張り、火をおこして蓋が最初で綱引を焼き切るか競争するゲーム。東京ではスイッチを入れればすぐ火はつきますが、キャンプ地ではそうはいきません。薪の置き方、運び方を十分工夫しないと、火種の新聞紙だけを燃やして消えてしまいます。

〔立ちかまどを使った調理〕



キャンプでは、各班毎に立ちかまどを作って調理をします。立ちかまどは、以下のメリットがあります。

- ① 風通しが良いので、火がよく燃える
- ② 作業性が良い
- ③ 構材法の訓練になる

〔夕食会〕

焼きそばとともろこしの鉄板焼。班長鈴木は足にゴミ袋を当てていますが、これは暑さから足を守るため。ただし、味は抜群です。



〔ビバーク〕



自分分で簡単な小屋（シュルター）を作ったのビバークです。防水の面で自信がないのか、スカウトは大事をとって雨具を着て寝ています。

2歳以上のスカウトは、キャンプ期間中必ず1泊ビバークします。



途中の神社に泊って朝出発する前に、みんなで撮った写真です。前日は、プラスチックのバットとボールで野球をしました。まだ移動の前半だったので元気一杯でした。

年間プログラム

	チーム	C S	チーム	B S	S S	その他
4月	みんな仲間	入 隊 式	スカウトとリーダー	誓いの式		
5月	お祭りとあそび	ピクニック	体を鍛えよ	春キャンプ		
6月	お祭りとあそび	野球大会	雨に打たれて	ハイキング		キャンプ
7月	宇 山	星野の発表	道と食けない	バイキング		
8月	キャンプ	春 芸	キャンプに燃えよう	東京キャンプ 不夜城		
9月	魚釣り大会	みこし作り	新隊長さん	旗 Kick off		
10月	祭り切り大会	ピクニック	川を渡ろう	ハイキング(沢登り)		中野池、あひ田
11月	贈り物	公民館発表	志願のついで	豊田マラソン大会		
12月	キャンプがやってくる	マラソン	マラソン会	マラソン		かぶり大車社
1月	春の初夢	新年会	Leta Go	もちつき大会		
2月	大雪に襲う	風上げ大会	魂	野営法		
3月	横山神社参詣	上道ハイキング	More	上道ハイキング		日本フレンドシップ

1980年 概要

〔CS隊〕この年のキャンプは栃木県西部須野にある雲間寺というお寺でした。お寺だけあって、きもだめしのコースが長く取れ真っ暗な参道や納骨堂、墓場などを通ったりという恐怖のコースで、泣いてしまったスカウトもいました。10月には東京湾端め立て地では釣りを行いました。高麗でも釣れるはずと思っていましたが、誰も一匹も釣れず皆ガックリしました。11月にはプラネテリウム見学、そして12月は例年通りマラソン大会を行いました。1月には団行事として新春もちつき大会が行われました。今まで行わなかったことのないスカウト達はその重さに大分驚いたようでした。年度最後の大きなプログラムとして筑山嶽でマラソン大会を行いました。

〔BS隊〕8月には第1回東京キャンプが群馬県相馬ヶ原の自衛隊演習場で行われました。このキャンプで我が団は団のサイトに大きな信号塔を建て他の団にその存在を知らしめました。またこの年から初めてマラソン大会が年間プログラムに登場し、諸のプログラムが変わってきた年でもありました。

<CS>

カブキャンプ：栃木県雲根寺

<ロープ取り>



広い広場でロープ取り。でも本当にロープ取り？ だって一体何処にロープが？ ロープがあるって言うんですか？。

<割りバジ鉄砲>



雨天のプログラムのワリバジ鉄砲作りです。各自、自由で作るとご宣の通り、こんな鉄砲を作ってしまうのです。はたして、ちゃんと当たりますかな。

<Cookingハイア>



スカウト諸君、そんな細いマキを入れたって煮えませんよ。一体何を作っているのかな。一応カレーだとは思うけれど……あんまり……ですね。

<上道ハイア>



ここに写っている5人のスカウト達は、上道スカウトとは一切関係ありません。



＜春キャンプ：水無川＞



1980年 春キャンプ感想文

〔ゲーム〕

当時の班長、次長は強者揃い。
ゲーム中に高橋隊長が襲われ、全身グ
シャグシャになってしまいました。
上野山「ザマムやがれ、」
隊長「観戦の洗濯が出来た。」

コンドル班 聖 部 健一

この開水無川にキャンプに行った。始めはいつもやる所と思っていたが、それよりもっと上った所まで行った。話しては30分位で着と聞いたのに1時間位かかった。行く迄にとても疲れた。着いてから設営をしている時、場所がせまくてテントが建てられなかった。食事の仕度がとても早くうまく作れた。しかし、食べる時間がすごく短かった。3〜5分だ。

新人に食器を洗わせるとても遅いので橋本に洗わせたり、僕が使ったりした。まさだけはある程だった。荷のように「火はつかない まきはたりない」と言われていた。コンドル班が従の様になったのはとても良いことだと思う。しかし、ゲームになるとコンドルは弱い。2日目の朝礼の時優秀班が、このコンドル班ではないか、みんな珍らしそうにこっちを向いた。しかし、それは、当然だと思う。新人は班長におこられ意いたやつもいた。見ていてかわいそうになった。

このキャンプで気付いたのは、新人の年上に向かっての言葉づかいだ。隣連の班の新人なんか「お〜なんだよ」と言ったように言う。でもみんな良く働いた。最後の日のワイドゲームなんかもうめちゃくちゃだった。帰る時になって新人は「やっと思える」とか言っていた。

僕だって初めはそうだったかな、僕も立派な班長になろうと思うがどうなるか手帳も出来ないのにな。

夏キャンプ〜第一回東京キャンボリー
群馬県相馬ヶ原

東京地区のボーイ隊が全て集まったキャンボリー。その中で我が7団は、番号等を立て、その上に「こいのぼり」をつけました。会場ではその勇姿がひときわたり7団の位置が一目でわかるシンボルになりました。さすが栄光の7団という感じでした。



食事の準備をする佐藤君。キャンボリーでは、食事の担当が全員の食事を作るので大変です。さて今日の朝食は、野菜炊め丼ぶりと、豚汁、お新香のスタミナメニューです。ちなみにキャンボリー会場は雨で雨が降ると下がグチャグチャになります。食当の佐藤君は、道具を着ての配膳には、それなりに理由があるのです。



当時の7団全員整列。猛者が、多かったため、他団とゲームをしても、一瞬にして勝ってしまいました。（「高校生が入っているのではないか」、「乱暴すぎる」との批判が被出した程でした。）

色々悪い出陣のキャンボリーでしたが、形に残っているものがあります。7団の看板に書かれている「丹波大」（東連名誉会長）のサインは、セレモニーの時、池沢副団長（当時）が頂いたものです。



年一回、日本とアメリカのボーイスカウトの交換キャンプがあります。スカウト達は「チェンジ」「チェンジ」を連発して、日本では手に入らないワッペンやネッチリンダ、ネックアップ等を交換し合います。



80年度シニアの大イベント移動キャンプ。今年は、焼津から浜松までの東海道中となりました。

眠い目をこすって、朝早くから準備して、出発前の緊張した(?)顔でハイポーズ。
さあ、どんな旅道中になりますか、という顔の団委員長もお見送りです。



前の晩遅れてきた宮寺健太郎君と、この時でラジブー。前日から降り続いた雨は、今朝になってもらさず、全員雨具を着こんで、次の目的地に向けて、出発前の勇姿です。この頃から上下の雨具がはやり出し、ボンチを着ている人がわずかになりました。ボンチを着る人は、てるてる坊主として一目を置かれるようになりました。



いよいよ目的地の浜松駅です。この昔にみんなで、浜松名物のうなぎを食べて精力をつけたので、目立ちたがり屋の血が騒ぎ、こんなポーズになりました。

前の晩に野営場近くの公園で益雨りがあり、ちよっとなつかしい気分が降り気分ひたりました。移動キャンプを達成した充実感が伝わってきませんか。



80年度のもう一つのイベントがこの「50kmオーバーナイトハイク」でした。今年はず中野駅から鎌倉までのコースです。寒い中、出発前に元気なところを見せて、いき鎌倉へ出発!! 中央の旗です。出陣にふさわしく登場しました。



途中の休憩の時のスナップです。この辺は、まだまだ高校生の特権、「着さし」を生かして、元気な姿で写っています。秋の終わりから、冬の始めにかけて行われたオーバーナイトなので夜は結構冷え込みました。非常に動きのある写真で、1人1人が個性的なポーズです。



次の日の朝食の1コマです。リーダーからとん汁の配給があり、冷えきった体と使った足を暖めている所です。腹ではおきを取りつくりつつも、そろそろ足が言うことを聞かなくなっている人もちらほら。その背中が誰かが想像して下さい。
『とん汁で元気づけて、夢こりせみん。』

	テーマ	C S	テーマ	B S	S S	その他
4月	月産ドン	入隊式	心意気	基本訓練	入隊式	
5月	自給自足	鏡山ハイキング レインジャー	体力	キャンプ		
6月	一本の糸から	縄むすび、釣り	限界			
7月	いびきかこう	体力作り、救急袋	汗	ハイキング		
8月	マジック全解	キャンプ、本隊大会	挑戦	夏キャンプ、本隊大会	移動キャンプ	
9月	大漁をふれ	はぜつり大会 ミツアツ	出発	沢登り		
10月	食糧危機	みかん狩り	意地	マラソン&博覧会	100kmハイタ	赤い羽根
11月	一泊遊戯		忍耐	スポーツ大会		
12月	なごり雪	ヤコナラ会	げじめ	オオアツ会	ヤコナラ会	
1月	初 夢	キャンプ、もちつき	誓い	Kick off、もちつき		
2月	徳成良祥	ラジオ制作	大都会	メトロポリスハイタ	マイスターズ	
3月	最後の夢	月の輪ハイタ 上道ハイタ	夢	上道ハイタ	地区100kmハイタ	日本アンプダウン

1981年 概観

〔C S隊〕まづ5月に鏡山ハイキングに行きました。今までC S隊で行ったハイキングの中では最も遠い場所の部類に入ります。鏡山と言っても奥多摩ではなく、房総半島の鏡山です。中野から電車で袋井谷まで約4時間、その後1時間位歩くと頂上に到着します。頂上から東京湾や関東平野の素晴らしい展望でした。帰りは浜金谷から三浦半島の久里浜までフェリーを利用、船に乗ったスカウト連ははしゃいでいました。カブキャンプは福高早蕨營舎で行いました。バスに7時間はどゆられましたが、そびえ立つ磐梯山、刻々と色が変化する五色沼などとてもきれいな所でした。9月には昨年も行ったはぜつりを行いました。今年こそはとほりきりましたが結果はヤッパで、2年続きの不満のためこの年に降約りは行っていない。その他秋には三浦半島でみかん狩りを行いました。園内で食べ放題でしたが、皆ヤッコ気合を入れ過ぎたため動けなくなったリーダーもいました。

その他のプログラム

座蒲団編み(紐を作って地面に座るときの敷物を作りました。)

遊戯作り(箱船という和風なものを想像しますが、いざ実際は?)

馬事公見学(遅く馬術の競技会を見学できました。)

もちつき大会(好評につきこの年も行いました。)

タッキングハイタ(丹沢は水無用でカウライスを作りました。)

ラジオ作り(慣れない手に半田ゴテを持ってゲルマニウムラジオを作りました。)

〔B S隊〕この年の夏キャンプは3年前と同じ日光小倉山キャンプ場で行いました。前回はスカウトとして参加して今回はリーダーとなった者もいて、各人それぞれ同じ場所でありながらも違った印象を残したことでしょう。秋にはマラソン大会+博覧会と言うのをやりました。これは善国寺公園までマラソンをや、ゴールの善国寺で博覧会の訓練というものでした。

<CS>

<はぜつり大会:辰巳>



竿を垂れども厚きは沈まず。
今日の夕食はどうなるのだろう。
結局、1日中やって釣果は
"ゼロ"本当にはぜつり
も釣れるんですか。

<みかん狩り:三浦海岸>



「あっちは……」
「ちさしょう、あっちのもこっちのも贈って……食べ放題
買って買って、そんなに食べられるわけないよ」
スカウトの友だちにも初めて参加
してもらい、この後三浦海岸にて
ゲームを楽しくしました。

<カブキャンプ:裏磐梯>



五色に輝く五色沼が今年のカブ
キャンプの舞台。
とても綺麗な所だけスカウト
連はそんなことよりヘビとお
友達。



7回のリーダーの団結力は非常に有名
食事を作りながら話している

写真のメンバーは

CS隊：班副隊長、班副隊長、
班副隊長
鈴木副隊長、武藤（弟）
副隊長、野尻副隊長補
高野隊付

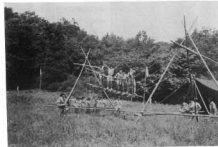
—夏キャンプ：日光小倉山—

<わらじ作り>



CS隊の班副隊長の指導のもと
わらじ作りに挑戦。中にはダン
ゾになってしまった物もありま
したが、ちゃんと使えます。

<パイオニア>



パイオニアでは丸太を組んで
「籠」を作りました。
籠の根元にリーダーが連っ
ているのは座っていない。横
がベシオンとつぶれてしま
うためです。

新人をみつめて

コンドル班副隊長 班副 健一

新人を班長から見えて思った事は、まず、山田は気が弱く、こわがりやすく、やさしく言えばよく聞かす、班集会など、たまに用事が出て、これない時がありますが、班集会に出ると、よく言うことを聞かす。何か命令するとよくしますが何も言わないとその辺にすわりこんでなにもしない。けれど、1回どなると、その日はよく働きます。あまり運動はできず、班集会のマーケットトレーニングやあばれるゲームはなかなかぜんぜんだめです。初級訓練キャンプでも、宝さがしの時、道を走り続けた時なんか、走りながら泣いてしまい、とてもつらかったみたいです。あと、かっこうが悪く、キャンプでもベルトとガーターをなくしてしまった。まとめると、あまりボーイスカウトにはわいていない。けれど、自分なりにガンバっているのだからガンバればよい班員になると思う。次に、林はいつもニコニコしているけれどキャンプの2日目はかなしそうにしていたので、ぼくから見るとやはり、かむしがりやだだと思います。でも、林はとてもよく働き初級訓練キャンプの帰り道なんか、ぼくの後をびたしついていた。林はいい個性がある。班長としてはみこみがある。まとめて新人は旧人よりよく働く。それは今回のキャンプでよくわかった。これからは、おれ以上のスカウトになってほしいと思う。

＜マラソン&滑艇会：善福寺島＞



午前中にマラソン（善福寺川公園～善福寺公園7km）、午後には善福寺池で滑艇法（ボートの漕ぎ方）という企画。

ちなみに高橋隊長は会社から贈られた記念の腕時計を水没させました。

＜サヨナラ会：新井小＞



役員行列でのリーダーの出し物の1コマ。

- ぬりカベ……………星部副長（CS）
- ドクキュラ……………堀嶋隊長（CS）
- カラ茶おぼけ……………高橋隊長（BS）
- 語 組……………奥沢副長（CS）
- 鬼太郎のオヤジ……………鈴木副長（BS）
- 魔法使い……………黒坂副長補（CS）
- 一反本朝……………武藤（第）副長（BR）

＜キックオフ：箱 根＞



’82年キックオフは山登りをしました。行きの小田急線の中で贈り解説をした手紙の内容は……

「新年あけましておめでとう。今年もがんばりましょう。

さて、17日に行われるもちつき大会のもちがある遊楽団に奪われてしまった。そこで其途に米を取り戻して来てもらいたい。なお、遊楽団は184138付近にて山に入り184126付近に米を隠し、君達が米を取り戻しに来るのを感じし-

＜SS＞

夏移動キャンプ：淡 路 島



毎年恒例シニア隊夏の移動キャンプ。この年は淡路島に行きました。

明石まで各駅停車を乗り継ぎその疲れや、初日の台風の影響で何かと不安になったけど何と言っても移動キャンプはその地域の人とのふれ合いが楽しいのです。

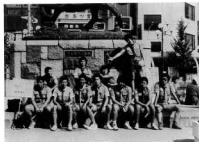


今回、日程中日の五色旗でのおかめ屋のおばちゃんに大変お世話になりました。

写真を見ればきれいに腕がフットカラーにやけているのが良くわかります。



7月2回目の100Kmハイタ。
中野一期会館100Kmを2晩歩き
っぱなしのハイタです。はじめの50
Kmまではみんなの表情は元気その
もの。残りの50Kmでは休憩すべ
ば寝るか、ママをいじっているかの
どちらか……
段々疲れもたまってきたてイライライ
ライタ……



上の写真は江戸川を上流に向かって歩
いている途中の一場面。ここでは2
時間後、3時間後のポイントが先
方に見えるためもう気が遠くなるや
らウツカに追われて走り出すやら……
思い出の江戸川でした。
下はゴールの熊谷駅前での記念写真
みんな笑顔を作っているけど、どこ
か疲れがにじみ出ています。

	チーム	C S隊	チーム	B S隊	S S隊	その他
4月	新 星	入隊式	spirits	基本訓練	入隊式	
5月	はらりありあり	キャンプデビュー	friendships	キャンプ		B S地区クワータ
6月	チームアライ	管球大会	activity	7団・10団合同OL		スカウトの奮闘
7月	ヘタレレス	体力作り	power	ハイコア+夏キャンプ		
8月	大自然の下で	キャンプ	serenace	8 N J 水泳大会	移動キャンプ	S Sキャンプ
9月	「山」と「川」	キャンプ	start	地団とコンパス		
10月	紅 の 舞	ロープ結び	challenge	山手原ハイタ(上半分)		山手原ハイタ 4月27日(土)開催
11月	僕らの宝	コンクッションハイタ	intimacy	野尻ハイタ	オーバーナイト	
12月	遠い約束	サオナラ会	trust	サオナラ会	サオナラ会	
1月	大団にトクイ	キャンプ+もちつき	recognition	キャンプ+もちつき		
2月	バランに注意	月の輪組ハイタ	fruitful	国電乗り放題ハイタ	サイクリング	
3月	年末への道	月の輪を返る会 上巻ハイタ	synthesis	上巻ハイタ		

1982年 概観

(C S隊)5月に奥多摩の日本鍾乳洞へハイキングに行きました。初夏の陽気で日中は汗ばむ程でしたが、洞内は寒い程に寒くなりました。この年のキャンプは2年前と同じ栃木県西部奥野の霊園寺で行いました。前回同様恐怖のきもだめしでは、数名のスカウトが寝出ししてしまいました。10月にはC S隊だけの運動会を行いました。これは現在行っている7団大運動会の前身ですが、当時は哲学堂で学校の運動会ではやらないけれどおもしろい種目をやろうということで、手押し車の垣根距離走などをさきやかに行いました。(翌年から大運動会に先発)11月には父兄も参加して丹沢の鶴七沢へハイキングに行きました。スカウトの御両親も交えてのゲームなど元気あふれたムードでした。また同じ10月には空気がしを行いましたが、課題の内容も願してある場所も各組別々というちょっと変わったものでした。

その他のプログラム

- ・哲学堂内の史跡巡り
- ・フナネタリウム見学(中野文化センター)
- ・ロープ結びの模型作り
- ・もちつき
- ・キャンプ(たごあげ)

(B S隊)6月、分対した10団と初の合同行事であるオリエンタリング大会を都府で行いました。お互い知っている顔もありそれがまた具合が入ることになりました。優勝は7団の田がりましたが、一連行方不明になり鈴木隊長に混同を決定させる程でした。(結局、無事でした。)夏キャンプは長野県入笠山で行いましたが、ほとんど全期間が雨になり朝食が午後になってプログラムが消化しきれないなど、今までのキャンプの中で、二を争う苦しいキャンプになりました。またこの年は「山手原ハイタ」「難民ハイタ」「国電乗り放題ハイタ」など単なる山登りだけのハイキングとは一歩違った都内高りというユニークな形のハイキングが多く行われました。

(S S隊)この年8月には第8回日本キャンプラリー(南蔵王)や第1回S S中野地区キャンプラリー(長野県南神城)が行われ、結局移動キャンプは行われませんでした。キャンプラリーの中での移動キャンプは1団と合同でキャンプ会場から赤魚川まで行いました。限られた日程内でコースの調整がつかず、途中電車で乗ると言うハイキングもありました。11月にはB S隊の班長にも参加させて中野-千葉オーバーナイト50kmハイタを行いました。後半の約15kmがえんえんとパイパスぞいの単純なコースで苦しさが増しました。2月には飯塚の中、中野-鶴見イタリングを行いました。



このほんごうで、ごはんを作ったのだ。

うまいぜ、



このおいしそうなカレーを見てごらん。

サワガもあって栄養満点、

「カブ、キャンプ：橋本朝霞明寺」



<キャンプ・ファイター>

スカウトと共にリーダーも燃えに燃えた、キャンプファイターでした。リーダーの衣装、苦勞したんだロ……。ところで田嶋隊長（写真の一番左）こんなことしていいんですか。

「運動会：哲字堂」



カブ隊だけの秋の運動会。秋といっても晩秋の11月。ピンポン玉を落さないように。

上進ハイキング かんそう

コンドル班 新沢 孝喜

今日は、上進ハイキングでした。ぼくはもう六年生になりボーイスカウトといっしょに活動すると思いがらもくてき地（ボーイスカウトと合同所）に行きました。集合場所は新井やくし。そこから電車で行きました。駅でおいてそこから1.0Kmちょっと歩いてもてきちにつきました。おべんとうをたべてちょっと遊び集合のふえが降り集まりました。ぼくはボーイスカウトになるので班がかわるので、どきどきしました。名前をよばれてで行きました。「君は、コンドル班だよ」といわれて、コンドル班のところへ行き、しじにしたがってかいました。

○こんどはボーイといっしょに歩くことになりました。いっしょに歩くことになりました。いっしょに歩くこと「ばてないかな」と思いながら歩きました。山を一つこえるのがもくてきでした。「一つくらいなら」と思って後たらすぞうたいへんでした。死にそりにつかれた。「でもこれをこえなければ」と思いガツパりました。ガンばって、ガンばってやっとなかと思たらまだまだ。こんなに長いぞうたいとは思いませんでした。やっとなかと思たらまだまだ。ほんとにしながら歩きました。これからもたいへんなことがいっぱいあるんだなと思いました。たいへんだロ、

【中CAMP：神奈川用水敷川】



「リーダーサイトに」

キャンプで火を起すには必ず必要ということ、ただ今新員訓練中、スカウトはナタを使うことが多いですが、リーダーはオノを使います。

出陣 C S隊 沼船隊長……左

B S隊 野尻副隊長……中

武藤副隊長……右

武藤副隊長はどうやら腰を痛めたようです。

コンドル班長 藤部 一

われわれ7団は、5月1,2,3日とキャンプを行った。このキャンプは、新しく入ったスカウトの初めてのキャンプなので、いろいろ気をつかった。まず1日目、集合PM3:00だったのでキャンプ地についたらもうまくらだった。新人が気を落とすと思っていたがよくがんばった。2日目、この日は昼ごろから雨がふり出した。キャンプで雨が降ることは、元気がなくなりやになってしまうので、さすがに昔も元気ななくなった。昼食がお休ってから、パン作りを行った。このパン作りは、けっこうこねただけで、できなかった。その夜、夕食会があった。夕食会でのわれわれコンドル班のメニューは、ビーマンの肉づめであった。作ったのはいいが、ビーマンがなくなり、肉だけになってしまった。その肉で、ハンバーグを作った。それから、キャンプファイヤーがあるはずであったが、雨天のため中止になった。でも、フライの中で歌をうたった。3日目、この日午前中は晴天であった。それから、宝さがしを行ないゲームもやるはずだったが、宝さがしで時間をとってしまい、ワイドゲームができなくなってしまった。宝さがしではいいくらいで、1歩で宝にありつけられたのに、スワローにとられてしまった。おれはくやしく、おもしろい宝探しをやってしまった。しかしほとんどに現金である。優秀班も、6点赤でスワローにとられてしまい、ほんとにくやしくてたまらなかった。せつかみんで、工作物など多くつくったのに、みんなくやしがっていた。しかし、このキャンプでは、おれがボーイに入っていない、8人という人数でキャンプもできたし、くたばるやつもいなかった、よかったと思う。これからは、優秀班を取ろうと思う。

【7団、10団合同OL：埼玉県飯能付近】



「朝会セレモニー：西武秩父線高麗駅前」

7団から分封した10団との初めての合同行事で飯能付近でオリエンテーリングを行いました。例年もなく無事、円満に終了するはずでしたが何と行方不明になった班があり、リーダーはまっ青。山の中をひたすら捜し回り、もうアタタタ。棒々でしたが、競技では7団が勝つてまずはメダリ、メダリ。

入笠山のキャンプと言えば、「5日間ほとんど雨が降りっぱなし」だったことが最大のエピソード。そのため、かまどに火がつかず、朝食を取るのが経過の2時、3時となることもしばしば、食事作りと調理に明け暮れ、大変なキャンプでした。

鈴木隊長談

「朝会セレモニー」



つかの間の曇りの朝のセレモニー。雨さえ降らなければ、こんなに自然に恵まれて良い所なのだよ。

「野営法講義でのヒトコマ」



隊の大テントの下で野営法の講義をする鈴木隊長。雨ばかりのキャンプの中にあつて珍しく雨が降っていない奇蹟。スカウト達もホッとひと息。平和な時間をすごします。

「みぞり」



こんな日が毎日続きました。冷たい雨がシトシトと、おまけに今日はガスが出ちゃった。こうやって霧を隔らないとテントの中は川と化してしまいます。でも鈴木君、こんな濡じやテントの中は水ビタンだ。

鈴木：ボク、講義する人

表沢：………（ボーイとして声も出ない。）



入笠音頭 作詞 鈴木邦之

空は雨だしホイ入笠 悩みばっかしホイ入笠
心ズキズキオツムは垂いよ ホーイ入笠ぐへるぐる
空にニの字の空にニの字の宙返り宙返り
入笠入笠唄を唄る 入笠入笠唄を唄る ハア

[G. B. CAMP: 五日市位嶺川]



山の手ハイタ感想文

ぼくは距離はだいぶ長いと思っていた。おわってみると、いがいと短かった。田舎から上野までがいちばんつかった。お茶の水から四谷までの間に少し足のうらがいたくなってきた。歩いた後のごはんはとてもおいしかった。と中までぼくたちスワロー班がトップだったけど、上野の所でぬかされてしまったとでもくやしかったです。ぼくはまたぬいてやろうと思いました。服できっぷをかっけてはるのがとてもよいと思った。ぼくはと中で道をまちがえないかな———と思った。だけど最後までぶじにたどりつけた。お茶の水から四谷まででベガナス班をぬき、コンドル班にぬかされてしまった。だけど、四谷からせんだがやまでにコンドル班もぬかして1位になった。せんだがやでうんこをしたくなってしまった。していたらぬかされるかもしれないのがまんして新宿まで行った。ついたら1位になった。その時はとてもうれしかったです。うんこをしようと思ったらでなくてしまった。2位と20分ぐらい早いかった。ぼくは早くワッパンほしいとなん回も心の中でいいつづけた。ぼくは家に帰ってみると、よく半回したもんだなーとかんげきしてしまいました。また今度の半回もでるつもりだ。その時はがんばりたい。賞品はボールペンだった。これでおわり!

つかれきったみんなに少しでも元気になってほしいと、SONGを歌いました。一旦元気そうだが、笑顔にやはり無理が感じられます。吉川君に至っては、笑顔さえできません。

8月のキャンプを終ると中学3年生のスカウトは休養してしまうので、班長、次長は交替となります。そこで新しい班長、次長を1泊キャンプで徹底的に訓練をする場がGreen Bar Campです。この場面は野営地を去る前のセレモニー。当時のGBは、

	班長	次長
スワロー班	吉川	小山
コンドル班	服部	橋本
ベガナス班	山田	表

スワロー班 小山 賢吾

コンドル班 林

2月14日に行なった、都営をつかってチェックポイントを回るメトロポリスハイキングは、とてもつかった。でも、おもしろかった。まず、てつがくどうからヤンチャイン行きで、鬼しげ神まで行って、そこから都電で行った。そこまで行くのに走る、歩くでたいへんだった。ぼくは都電でおもしろいなと思った。次は雷門までバスで行った。この時、ベガナス班とあった。ぼくは、ベガナス班はおそいなと思った。そして雷門のチェックポイントまで、どちらが早いかわかった。その結果コンドル班が勝った。ぼくは、よかったです。そして、みんなも同じ気持ちだったと思う。そして、次のチェックポイントの上野に行った。この時は、近道をみつけたので、そこを通ったとしても早かった。次のチェックポイント神保町へ行く時、道をおしえてもらったら、おまけに地下鉄の路線図をくれた。ぼくはやさしい人だなと思った。そして、神保町まで地下鉄にのった時、ぼくは早いなあと思った。神保町についてリダーに、「スワローは、何分ごろにきた。」ときいたら「30分位前にきた。」と言った。このとき、おくれをとりかえさなくちゃと思った。おくれというのは、上野で次長がフリーパスをなくして、それをさかしていたときに、おくれしてしまった。好きよくフリーパスはみつからなかった。そして、次のチェックポイント東京タワーにむかった。この時、お成門から東京タワーまで行くみちが遠いので、さくをこえて行った。ここでスワローとあった。でもスワローはすぐに東京タワーを出ていってしまった。そして東京タワーの人に、東京タワーのとく長などをきいてから、次のチェックポイント新富ぎえんへむかった。しかし、な、なんとコンドル班の予定していたバスが、朝少しか走っていないかった。しがたがぼくたちは、コースをかえていた。そして、千代がや駅からぎえんまで走った。でもだいたい前のコースと同じくらの時間をついた。そして、最後のチェックポイント、サンラザレ前の公園へむかった。この時はなにごともなく、最後のチェックポイントへついた。すると、スワローが30分ぐらい遅かったといっていた。そして、ぼくたちは、最終的に優勝した。しかし、反省するところや不注意な所はたくさんあった。でも、最後は優勝して本当によかったと思う。

「出発地点」



これより7団と11団の合同隊単
括隊の移動野営のスタートです。
これから地獄の3泊4日が来ると
は知らず元気気ハツツラの6人です。
左より藤巻、古岡、相沢、岡本（
11団）、高野です。

「楽しみ本懐日本海」



これは、最終地点の糸魚川の面
です。出発地の佐野坂スキー場
から新潟までの60キロを1日
約20キロ毎日歩き夏の風道を
歩いた為になんな人のように日
に焼けています。海でマッコ
ではなく、一泊あびてから糸魚川
まで歩いて行きました。
左の人形の悪い人は野尻くん
です。

「秋葉神社」



移動野営唯一の楽しみの夕食です。
次の日朝起きたら神社の担持大会
があった為になんな人々の見物
になり、朝早くに出発しました。

START：中野駅北口 10:00P.M

GOAL：千葉駅 12:00 頃



一夜明けて京成電鉄の谷津園駅で
朝食を食べる前みんなでふざけあ
っているところ。とにかく足がダル
くて……。

左より 古岡、小山、相沢
黒坂副長補 (C.S.)
鈴木隊長 (B.S.)



ゴールの千葉駅で記念さつえい。
さすがゴールでは、全員さわやかな
顔です。

	チーム	C S 隊	チーム	B S 隊	S S 隊	その他
4月	第 一 期	入隊式	春ヨナラ	料理研究会	入隊式	
5月	第 二 期	キャンプのハイタ	E・T・S (カウチマン)	突撃ベイクキャンプ		
6月	You-ボート	ボート訓練	ドラクァアライン	調理とコンパス		スカウトの楽しい ボーイ隊地区デー
7月	第 三 期	体力作り	BE・PAL	ハイキング・夏キャンプ	ハイキング	
8月	全力登山	カブキャンプ	太陽がいっぱい	本流大会	移動キャンプ	
9月	有 学 習	地域の調査	ANGLE	山の学習ハイタ(下中)		カブ隊地区リーダー 研修ファシリテーター 会・引継ぎ基金
10月	実りの秋	なしもぎハイタ	あーん光る	アジアンキャンプ 母屋大会		
11月	カブハンピタ	大運動会	よこした英館	大運動会登山ハイタ	オールナイトハイタ	
12月	来年よりよろしく	ヤコナラ会	恋人がヤコナラコース	ヤコナラ会	ヤコナラ会	
1月	出初め式	ケックオフ、もちつき	新春さんいらしーれい	キャンプ もちつき		
2月	42.195	マラソン大会	奥のランナー	マラソン大会		B・P 祭
3月	……んず	丹の輪キャンプの振り返り会	なごり堂	土産ハイタ	移動キャンプ	

1983年 概要

〔CS隊〕まず、5月に御父兄も参加してのタッキングハイタを行いました。今回参加していた
 だった父兄にはそのお子さんの組に入って頂き、スカウトと一緒にナタで薪を割りたり包丁を握
 ったりと、なかなか楽しい思いをしていたのだいたではないでしょうか。6月には中野から歩いて
 千代田区の千鳥ヶ淵水上公園でボート訓練を行いました。初めてボートを漕いだスカウトや、
 ふざけ過ぎて転覆しそうになったりとか曾大はしゃぎでした。この年のカブキャンプは群馬県上
 野村で行いました。そう昭和60年には世紀の大事件の舞台となったあの上野村ですが、当時は
 「らしい山の中だなぁ」という印象しか受けませんでした。2日目の夜に行ったナイトゲームは
 空気がしていましたが、各組懐中電灯一本だけ持った山の中を歩き回り、思わぬ場所にリーダーが
 いてビックリするなどなかなかスリルがあったようでした。11月には7回あげての大運動会を新井
 小学校校庭で行いました。競技は並の運動会では絶対やらないハードなものばかりでした。例え
 ば障害物リレーではリーダーにバトンがまわるとスカウトを背負って走るという人間のやること
 とは思いませんでした。

その他のプログラム

なしもぎハイタ(川崎市登戸)

清掃奉仕(哲学堂公園内)

マラソン大会(B S 隊と合同で多摩園にて)

〔SS隊〕この年は実質的活動メンバーが2名しかいませんでしたが、活動は充実していて、
 7月に奥多摩で野草観察ハイタ、8月に北海道で移動キャンプ、11月に高尾山~陣馬山のオー
 バーナイトハイタ、そして初めての試みである3月の伊豆大島での移動キャンプなどでした。夏
 の移動キャンプは参加者2名ながら一応の成果はありました。新企画を取り入れるなど意欲的
 な年でした。

<CS>

〔親子タッキングハイタ:五田市犀竹山荘〕



タライで洗えば、お父さんもお母
 さんもお洗濯がはかばかしくなりましたし
 ょう。ボーイスカウトならではの
 料理法です。天候も良く、この後
 は川遊びをしながら、楽しい時間
 を過ごして、帰路につきました。
 家でお父さんやお母さんと今日の
 ハイキングについて話っただし
 ょう。

〔ボート訓練:北の丸公園〕



新宿から千鳥ヶ淵まで歩いて行き
 ました。うまくなつてここに泊ら
 かな?

決断明:「ロイヤルクラウン」

山崎:「あーもう疲れちゃった
 なあ、」

オールを持つ手にママを作りなが
 ら、一生懸命ボートを漕いで訓練
 に励んでいます。

〔七田のタライ〕

タライは実に様々な用途に使われています。

- ①調理……洗えば、焼うどん等々の物用 ②料理盛りつけ……サラダなど
 ③食器洗い ④洗 濯 ⑤雨水接着 ⑥キャンプファイヤーの小道具

<集合>



梅雨の合い間の青空の中、行なわれたスカウトの集い。7団は中央の位置に陣取ってヤグラ太鼓を立てました。この写真は祭りも終わってひと段落した後で、自働のヤグラ太鼓の前にみんな揃ってハイポーズ

<ピロファイト>



お揃いのハッピを着て、先次にまたがり、寝袋を持って一発で相手を地面にたたき落とせ！
「どうだ。オレの幻の右を受けてみる。ワッハハッ！」

<みこし>



他の団のみこしを借りて、ワッジョイ、ワッジョイ祭りだワッジョイ。
いつでもどこでも、7団一番ちなみにおそろおそろ乗っているのは上田くん、この時は走りにも大活躍でした。

<小ハイト>



キャンプ地に到着して雨の中小ハイトを行ないました。福崎隊長の注意をよく聞いてポイントの準備をこまないと、次の日のとん汁が長なしになってしまいます。だから、みんなの日も真剣そのものですね。

<シュルター>



営林署のオジサンに怒られてレインジャー訓練がシュルター作りになりました。デンチーフと協力し合ってとても立派な(？)シュルターが出来ました。シュルターの前でデンチーフの小山くん、相長の小林くん以下全員が自働そうにポーズをとっていますが、はたして雨が降っても大丈夫でしょうか。

〔レインジャー訓練〕

レインジャー用の太いロープを張るの実はなかなか難しいです。人の体重がかかっても垂れさがないようにピンとはるには、ロープの引張り方にも工夫があります。なお、現在のレインジャー用ロープは、築地付近の船具屋を歩きまわって購入した特注品。

<小宮火>



雨が降って寒い中、新人にとっては初めてのキャンプであります。小宮火で紅茶を飲んで暖まりながら楽しいひとときを過ごしている所です。ちなみにこのキャンプでは、思わず「鼻血ゾーブ」というメニューで語り継がれています。

<ひとつの春に>



2日間のキャンプも終わり、楽しかったことや、苦しかった事を思い出しながらキャンプ地に感謝の気持ちを表しながら「別れの歌」を歌っている所です。

料理隊集会感想文 苦しいし

スワロー班 五十嵐 弘直

今日は、ボーイスカウトの料理隊集会。雨がふっている。みんなといっしょに野方青年館にいった。ついたら、ぼくはかさささなかつたからびしょびしょだった。そして中に入った。スキヤキを作るので、ぼくはねぎを持たされた。そして肉を切ったり、とうふを切ったり、みんなの手助けをしているいろいろあった。そして時間をかけてじっくりとこんでやっと思えた。ほかの班の人たちもできたようだった。そしてみんなでくばりが、リーダーが豪華なごはんやしみや○○○○を出した。そして食べたがすごい量なので死にそうになった。それでも無理矢理食べさせられて小森がしまいに泣いてしまうほどだった。やっと思えてやっと思えて雨の中を帰った。

スワロー班 上村 健一郎

4月30日土曜日2時に吉川家に集まり、夜で中野駅に向った。とちゅういろいろな人に「1列になって歩いて」とおこられるように言われた。「今年の荷物は軽いよ」と班長をはじめ大勢の人に言われたのでそうかなと首をかしげながらフツフツ歩いて行った。やっと思えて中野駅まで着いた。ここで30分ぐらい待って約3:00に中野駅を出発した。

今年のキャンプは去年と同じでまた水無川だ。今年で2回目だけれどもやっぱりまだ心配だ。でも休日の都合で今年は1泊2日のキャンプなので比較的楽だ。電車の中はこんでいてキスリンダの上に乗って座っていた。なかなか着かなくて、まだかまだか駅名を見てはあて何個とかぞえていった。そして狭沢駅に着いた。もう返りはうす暗くてなんだか心の色と似ていた。大會まではバスで行くことになっている。だから少しの間待っていた。やっと思えてバスが来た。ぼくたちボーイ達の他にもキャンプをする人たちがいて、もうバスの中はぎょうぎょうだった。しばらくたってだいぶ周りの景色が田畑に変わっていった。家畜を飼っている所もあってその辺を通ると「せー」とうなるような声をはり上げる。バス中も「シーン」となるとああもうすぐあの苦しげな登山がはじまるとだんだん心が沈んでいく。そんな心機なところで大會に着いた。去年と同じ風景だった。なつかしく感じてもうここまで来たのかとびっくりした。

いよいよ恐れていた登山がようやくはじまった。去年はこの地獄のような山道をほとんど無神経な状態で登った記憶がある。進むにつれて雨が着ていて荷物は重く感じていく。けれど今年は日印のかんぼんなどに案内はやくたどり着いた。あともうちょっとだと気持ちに言い聞かしてもう周りが真っ暗な道を歩き続けた。ふと下を見おろすとランブが懐中電灯の光が輝いていた。やっと思えてもう着いたぞと最高の喜びを心で味わっていた。着いた。とうとう着いた。そこには隊長とキャプのリーダーの黒坂君がいた。辺りの景色は真っ暗だったのでわからなかった。ぼくは倉庫アクトを覗き立てた。こんな簡単だと思っていたらけっこうむずかしく時間がかかった。テントも組み立て終わって食事の時間になった。けれどこれはお弁当だ。おなかのむずかしくなっていたので弁当でもおいしかった。食べ終わってやっと思えて落ち着いた。外は寒く制服の上に着るを着て作業を行った。それからセレモニーやガスランキャンプファイヤー、誓いの式などやって11時近くしゅうしんとなった。もうねむくて、ねむくて、はやくねむりたかった。だからね袋に入るとすぐ寝てしまった。ぐっすりねむって朝5:30ごろ起きた。起床は6:00だったので少し上に乗ってそれからまたねた。ふえの音が朝一番に鳴りひびいてテントから転がるように出た。すぐ体機のはじまてなまっていた体をほぐした。深呼吸をしたときとでも気持ち良かった。体もめざめて朝食作りにとりかかった。ぼくの仕事はマキ拾いと、野菜切りが主だった。スワロー班が一番できておいしかった。メニューはいいため物とおすい物だった。食べ終わったら急いでかたづけ急いで着がえた。どうにかまたあい点検がはじまった。この結果は朝のセレモニーで発表される。セレモニーがはじまると発表になった。結果は夜の仕事が豊かだったけれど朝は良かったらしい。それで優秀班はスワローになった。やっと思えてうれしかった。セレモニーも終わってまた急いで着がえ工作の話しが行われた。話が終わるとその話を参考に工作作りがはじま

った。いろいろなものを作った。ちょっと不便な水道（今までよりは便利）や食卓、門など力作ばかりだ。写真をとっていいよ！次は宝探しだ。ようし、ぜったい宝をとってやるぞやる気まんまんだった。けれど川をわたってばかりでなかなか宝のある所まで行けなかった。川をわたるとちゅう石に足をすべらせて川の中に入る人がいっぱいいた。ぼくもよそ見をしてわたっていたため足がズボンとともろに川へ入ってしまった。くつとくつ下、足がびしょびしょで走るとチャブンチャブンとひどかった。やっと宝のある場所までいった。けどなかなかみつからない。いろいろ考えてあそこだ、あそこだと調べていったが見つからなかった。とつ然コンドル菓の班長が「あったー」とさげんだので本当かなと疑ってしてみると、紙に包んだかんづめがあった。くそがとくやしかった。みつかった場所をさくとなんだとつまらない場所だった。もうズボンもぬれてテントに帰っていくと急いで着がえた。そしてあわてて昼食に取りかかった。今年の春キャンプは火がすごくよくついたので去年の半分の時間ですべて。昼食のメニューはツチューとパンと紅茶だった。これもおいしかった。ちょっと失敗したところはシチューが甘かったことだ。次からは気をつけて味付けをしようと思う。

食事もすんで遊園にかかった。ああ、もう帰ってしまうのかと、まだいたいような気持ちだった。荷物も全部キヌラダの中に入れパッキングをした。終わりのセレモニーをして、また重い荷物を背おって行き来た道を下っていった。行きとはちがって景色をみながら歩いていった。そして中野駅に着いたのが6:06分だった。わずかな間のキャンプだったが、いろいろなことがあって楽しいキャンプだった。

夏キャンプ：山梨県白州町

<夕食会>



年間最大イベントである夏野営。

発祥当時からあった夕食会での一コマです。毎週、鉄板での料理が好評で、今回は焼きそばとポテトソテーでした。

ところで、中央のタライでナラダを作りましたが、よく見ると下にひいているのはアルミホイルではなくてなんとビニールのゴミ袋。

<アスレティックダイジェスト>



4日目のアスレティックダイジェストでの一コマです。中央でそんなまの姿勢をとっているベガヤス組の班長の表君はパンツを履いで軍配のウナワで土入れ入りをしている所です。ちなみに絶対抗戦で優勝していたのは、スロー組でした。



今回の移動キャンプは参加スカウト2名という寂しいキャンプでしたが北海道の大自然に触れることができ当人は満足のようです。左の写真は2日目の晩です。雨でズブぬれになった我々をみた旭元の魚師さんが資材直売を一晩貸してくれました。まさに天のめぐみとはこのことです。



人家からわずか15分程でこの立て札を見つけました。さすが北海道ならではです。さてこの後、俄に襲われずに無事東京に帰って来られたのでしょうか？



とにかくパッタにひろがる大平原をごらん下さい。解説は無用です。んー広い！



大沼をパッタにあいにく曇天でしたが、さすが固定会所だけあって景色はパツダン!!ただ観光客の多さに閉口しました。また東京とは違ってはるかに涼しく湿度も少なかったので、福調に行なわれました。



全日程を終了し、夜行列車を待ちながら夕食をとっているところです。今回のキャンプは全額印刷されたことがなく、この日も前でした。駅の待合所で御飯を飲いたため、後で駅員さんに大目玉を食らいました。

テーマ	CS課	BS課	SS課	その他
4月	友達の輪 入隊式	基本訓練、料理委員会	入隊式	
5月	お母さんありがとう 親子タッティング・ハイタ	春キャンプ		
6月	YOUの心しんじろ スポーツの集い	課長ハイキング		スカウトの集い
7月	胸のワクワク 体力測定	バイオキャンプ		
8月	今宵は最高 カップ・ソング・本流大会	夏キャンプ、本流大会	移動キャンプ	
9月	取 巻 巻 巻もぎハイタ	ハイキング・三ノ峰		カブワラー
10月	道 楽 内 運動会	大運動会		あい四科委員会 中野文化センター
11月	デコレーション お菓子作り	ゴミ拾い隊集会		
12月	おひらきクリスマス オキナラ会	オキナラ会	オキナラ会	
1月	かがみ開き キョウナス、もちつき大会	もちつき大会、キョウナス		
2月	ありがとう 清掃奉仕	スポーツ隊集会		
3月	はばたけ 上道ハイタ	上道ハイタ	移動キャンプ	

1984年 C.S.概要

5月には前年に引き続いて親子タッティング・ハイタを行いました。今回は、団委員長も参加され、父兄の方もスカウトと一緒に御飯を作り楽しいハイキングでした。

6月にはスカウトの集いが行われ、あいにくの雨で当団が企画したアドラクションのロデオは披露できませんでしたが、仮装行列の劇で団委員長の1日をやったが他の団にもとも受けていました。今年のキャンプは埼玉県秩父郡、小栗荘にて行いました。今回の目玉は何と云ってもPUSHハイタで生きているにじまを各自好きなように調理して、昼食のおかずにするというものです。最初は気持ち悪がってさわらないスカウトや、さばき方がわからなくてそのまま煮こうとしたスカウトもいました。全員が、塩物になってしまいましたがとてもおいしいおかずができました。

9月には父兄参加のなもぎハイタ、10月の7団大運動会はまさに秋晴れのまっさらお空の下、今年はゲーム・スカウトにも参加してもらい、初めは恥しがっていましたが、すぐに打ちとけ大いに盛り上りました。11月はちょっと趣向を変えてお菓子作りの隊集会を行いました。律、料理とはちょっと違うのか？最初は何と多少とまどっていましたが、最後に賞品たてのおいしいクッキーでゆうがな Tea Time を迎えました。

(その他のプログラム)

道徳ハイタ

スポーツの集い …… 新井小学校校庭で野球やサッカーを行った。

カブワラー …… 所沢記念公園で宝探し

ブタネタリウム見学 …… 中野文化センター

オキナラ会

もちつき

清掃奉仕 …… 歩道橋の清掃

スポーツの集い 新井小



午前中はご覧のように野球、午後はサッカー、カブ隊山口君、残念ながら空組の三組です。だけどキャッチャーの黒坂隊長、目なんかつぶっているかと振り逃げされちゃうよ。

スカウトの集い 多田小



7団の出し物はロデオをやるはずでしたが、残念ながら雨のため仮装となってしまいました。

7団の仮装は、団委員長の高橋さんの一日を演じました。朝起きてすぐのバジャマ姿は横口くん、会社へ行く前のあわただしは小山くん、通勤途中は原田くん、会社で仕事をしている姿と、徳待の場面では原田くんが高橋さんの役、成金の役は小野寺くん、パニーゴールは橋本くんの兄で、酔って帰るのは野村くん、家で怒った妻さんを演じているのは相沢君の前、この後家で夫婦ゲンカが行われました。大うけのうちの7団の出し物でした。

＜ニジマス＞



今日のお昼はニジマス
自分の分は自分でちゃんと獲
きました。見た日は悪くても
とってもおいしかったんだよ。

＜スイカ割り＞

写真なんかにはポーズを取っ
ているとスイカがなくなっちゃうよ。ちなみに副隊長は、
宇野君の除でしっかりスイカ
を選んでます。



＜お風呂＞



鈴木隊長、そんなウツロな日
で僕を見つめないで下さい。
僕、はずかしい。

＜朝の点検＞



おもてなす 鹿 荘

朝の点検では各スカウトの健
康状態、各組の展示物、飾り
つけなどのチェックをします。
左の写真は、手がきれいかど
うかを副部長が点検してい
ます。



ハイキングとしては珍しく近
い所でした。たくさん取れた
けど、食べて重いんだもの。

カブキャンプ感想文

小山 賢 吾

僕が班長になって初めてのキャンプだ。去年は前の班長がいたので気楽だった。でも今年は僕が一番
上なので、少し不安だった。
2時半に中野駅に集まった。北習志野の駅に5時頃ついた。そこからキャンプ地まで3分歩いた。
バテル班員がいるかな〜と思っていた。だけど一人もいなくて楽しかった。山のついでなので少
しつまらない気がした。キャンプ地について、すぐテントを築いた。班員が頑張ってくれてよかった。
7時から夕食になった。新人1人1人に自己紹介をさせて、暗くなるやつがいるかな〜と思ったら、
全員明るく、これなら、ホームシックにからならないと思った。夜はナイトゲームをした。内容は殺人
光線だった。やっているうちに、くだらなくなった。その後のミーティングは楽しかった。その日は
僕達スワロー班は、7人もいるので2人、倉庫テントで寝た。新人も1日目は、まだまだ疲れてい
ないらしく、消えなくなって、しゃべっていた。2日目はハイキングがあった。道中道に迷った。
最後のレインジャーもなかなかおもしろい。今日は、なんと言ってもキャンプファイヤーが楽しかった。
キャンプファイヤーの中で、劇と歌をやった。歌は自分でもまあまあだったが、劇は自分でもくだら
ないと思ってしまった。途中ちがう団のおっちゃん達が来て、歌を教えてくれたが何か何んだかさざ
りわからなかった。キャンプファイヤーが終り、一番いやなバーベキューだ。去年の夏キャンプと、グランパ
のキャンプの時やたので、シェムターの作り方はわかってた。
3日目あつという間に帰る日が来た。午前中に空気がしがあつた。今年はみごとにスワロー班がと
つた。とても楽しかった。点検の時、かまどに火がついていたので減点された。「くや〜」。それ
で点数が付かなくて、優秀班をソンドル班に取られた。自分としてはよい経験になり、夏キャンプ時
は2度と同じ間違えないように勉強をしていきたい。



ストーリーを当時の手紙の
内容から……

「中野：アリコ本社にドロボ
ウが入りお菓子の新
製品が3種類出ま
れた。すぐに用を追
え
浅草：犯人の一味は海外に
逃げる恐れあり、至
急逮捕せよ、
羽田空港：犯人のボスは空港の
警備が厳しいのか飛
行機をあきらめ、船
で逃げるらしいとの
情報がはいた。」

ゴールの城南島での犯人逮捕のゲームで決死隊が行方不明となり一回大騒ぎ！

夏キャンプ：御殿場清室園

<集合>



いよいよ夏キャンプ！眼目
をこすりながら中野駅に集合
夏キャンプで優秀班となると
年間最優秀班を、はば手中で
きるため、やる気満々の写真
!!

<スワロー班>



夏キャンプ中のスワロー班の朝
食でのコマ、キャンプの中で
食事のときが一番、目が輝いて
います。
妹はともかくとして、このひと
時がなんとも言えないのです。

<バイオニア>



バイオニアで「家」を作ってい
る時のスナップ。大事な床を作
っています。
上村（弟）君と洪沢（弟）君と広
田君の表情は真剣そのもの。

夏キャンプ感想文

ベガス班 小林 史之

ぼくは、新人が一人しかいなかったのでも大変でした。
班長の松沢君におかれてばかりいてとてもつらかったです。でも、松沢君がキャンプなんてすぐお
わっちゃうよと、いったけれどぼくにはとても長くかんじました。
一日目は、あまりつらくなかったけど、二日目からは、とてもつなりました。とくにハイキングが
つなりました。ぼくたちは最初から道をまちがえてしまいました。そして、スワロー班について
それからコンドル班についてそれで少し替んなといっしょに歩るいでぼくたちが一番になりました。
目的に着いたら病人が出て帰りは替んなで帰るようになりました。それで病人は、むかえのトラック
で帰りました。一番楽しかったのはキャンプファイヤーでした。とくにどんががおもしろかったです。それにシ
ニア露のしゃんかんげいもおもしろかったです。一番遅れたのが定かしてました。最後に帰っているとき
は指の先がとても痛かったです。それに鈴木君との勝負も負けるかと思っただけど頑張ってとりました。



カブ隊の持ち合せでボーイ隊が先に着いてしまったので「新春相模大会」を開きました。行司の野尻副長「みあって、みあって、はっけよ〜い」東、いがの山、西、そなか川。さて軍配はどちらにノ



東京が何年かぶりの大雪の中、毎年恒例のもちつき大会が執行されました。

この後、つきたてのおもちを食べるため、皆さんで力を合せてもちをつきました。

寒い中 ご苦労さまでした。



カブからボーイへの上道を下マチャクにやろうということで、班長がボートを漕いで上道者を連れて来るという企画。しかし、班長がボートを上手に漕げず、関が抜けてしまいました。

上村(弟)、伊沢(弟)「なんだか不安だな〜〜」



船着に置かれた阿古地区とバックに1枚ノ
何人とも言えない異様な光景でした。
小山君、余裕のVサイン。



朝、出発前にその日のコースを確認します。出羽君の指がわがどらしいと言う声が聞こえてきそうですが、本人はいたって真剣です。

〈故とたわむれる2人〉



目的地に早く着きすぎ、そので海岸へ散歩に行きました。海辺にあった丸太の上に乗って浪がきても、どこまで解えらるるか……なんてこともやっていたら相沢副長補は見事に海に落ちちゃってしまいました。

〈船内にて〉



みんな長い船旅に飽きてしまい甲板をウロウロしています。1人だけ上を向いている若者。どこを見ているのかな？

1985年

年間プログラム

テーマ	CS隊	B5隊	SS隊	その他
4月	THE DJ 基本動作、国策	料理教室、茶キャンプ	入隊式	
5月	オイラ江戸っ子 入隊式、親子ハイテ	サイクリング		
6月	スナックとは何所しちず そのそらうらなしまし祝	ロープ結び	3次ハイテ	スワットの集い
7月	ボクも名ソック 体力測定	ハイユニア		
8月	OH 兼 SUMMER コプキャンプ、水泳大会	夏キャンプ、水泳大会	移動キャンプ	
9月	ありがたうお盆 親子キャンプ(中絶)	登山ハイテ		ホグワリー
10月	秋祭スポーツ ソフトボール大会	青い資格募金		7月大運動会
11月	賢者 good ハイキング、動くおもちゃ	BS ララー		
12月	20 YEAR'S OLD マラソン会	マラソン会、初日の出ハイテ		
1月	SHOW GUTS 新春マラソン大会	キートンマラソン大会		
2月	CUB 船一人 ステ+1大会	ディスカバ―横浜、スタート大		
3月	ゲン担'S 月の輪キャンプ、上道ハイテ	上道ハイテ		

1985年 概要

(CS隊)5月に行われた親子ハイテは、下町探検をテーマに浅草の2階バスマや隅田川の水の上バスに乗りました。目的地の台場公園では入隊式を行いました。天気がよくあまり歩かないこともあって多数の父兄の参加に恵まれ、大盛況のハイキングでした。

8月の輪キャンプは、山梨県道志川で行いました。中日に道志川で川遊びをやりました。川の水はとても冷たいのですが、スカウト達は元気そのものでした。9月に予定された親子キャンプでハイテは当日雨のため突然の中止。目的地ではB5隊のG具キャンプと合流して料理をするはずでしたが、突然の中止のため、余った30人分の食料は当然食べて処理しなければならず、リーダーは死ぬような思いだったそうです。10月は新井小校祭を借りてソフトボール大会。11月は奥多摩日の出山のハイキング、秋の澄んだ空が印象的でした。12月のサヨナラ会は例年とは趣向を変えてゲーム大会を行いました。1月、年明け一発目のキックオフは小平から多摩湖までのマラソンで幕を明けました。2月、読売ランドでスケート大会。3月の月の輪キャンプは五日市で行いましたが、ちょうど記録的大雪の日。1日ぶつかりスカウトはおおかりリーダーまでも初体験のキャンプとなり、様々なエピソードを残しました。スカウト達は初めてのキャンプが一生思い出に残る貴重なキャンプになったことでしょう。

(B5隊)ゴールデンウィークの春キャンプも終り新暦の中、子供の国までのサイクリング。初夏とはいえず暑さと、登り坂の連続でナカベソをかきながら、ペダルをこぐスカウトもいました。そして7月には地下鉄のスタンプ集めのミスターXハイテ。夏キャンプを終え、班長も交代しての川東山への登山ハイテでは新人班長のため道に迷う班が続出！リーダーも気をもみましたがこの後のB5ララーのオーバーナイトハイテ(新所沢―栢田教会)では見事上位独占！栄光の7団は引き継がれていました。正月恒例の初日の出オーバーナイトハイテ(東京ヘリポート)では残念ながら曇り空のため、太陽を見る事はできませんでした。寒い中でディスカバ―横浜でのハイキング。ボーイスカウトと横浜のモダンな風景。多少のギャップはありましたがスカウトの中には横浜に来た事のない子供もいてそれなりの効果も上げました。何かとイベントの多くなるこのごろですが、スカウトの参加人数が少なくてせっかくのイベントも盛り上がりません。スカウト諸君！隊集会には毎回出席しようぞ。



出発前注意を受けている際の写真です。これから始まるカブキャンプに備えて、みんな真剣に、緊張気味の表情をしています。



スカウトは結局1人も火がつかず、唯一火の上った隊長は、火を見ながら何を考えているのでしょうか。



近くを流れる道志川にて、真夏とはいえ水遊びは冷たくリーダーは丘の上で観ています。しかし、スカウト達は元気なもの



3組中星君どうでしょうか。他の組のケジにのびず、その後見事にスイカを割ってにっこり、優勝も結局3組でした。



新人にとっては初めてのキャンプ今年も天候も良く順調にプログラムも進みました。前列から2人目の沢村君は、前夜キャンプファイヤーでもらった特修章を自慢そうにポーズをとっています。さて、新人は今夜自宅の布団の中でどんな夢を見るのでしょうか。

ボーイ隊始まって以来の快挙である。際サイクリングは晴天の中、行なわれました。初夏の風を全身に浴びて気持ちよさそうに先頭を走っているのは吉田君です。しかし、アップダウンがきつくて、みんな疲る時は息がゼエゼエでした。



最初はXという人物の一生を追いつながら、ハイキングする予定でしたが、ポイントの場所を決められなく、地下鉄フリーパスを使ってスタンプを集めることにしましたが結構スカウトには好評でした。この写真、愛宕山の石段をスクローンが駆け上がっているところです。

<BS> 夏期野営：長野県小諸市清水キャンプ場

< 班長会議 >

夏期野営では毎夜、班長をリーダーサイトに呼んで、その日1日の反省などを話し合っています。この時は班長の特権としてビスケットを食べることができて紅茶も出ますが、その反面リーダーから説教をくらって嫌し、悲しの班長会議となります。



< 2階建て小屋 >



小屋を作るようになって、始めて取り組んだ2階建ての小屋です。

1階では食事の準備など生活をする所で、2階で寝るという小屋です。建てるまで時間がかかりましたが完成した時の充実感は最高です。

< キャンプファイヤー >

毎キャンプおなじみのキャンプファイヤーです。最後の夜は、みんなが楽しみにしていて、苦しかったことなど忘れて思いきりはしゃいでいるところです。



合同運動会 (B.S 7.10.11, G.S 45.46) ; 新井小

< 練習 >



7回で運動会を取り入れて3年目となりました。1年目は7回だけ2年目はガールスカウト48回と、そして今回はボーイの3回とガールの2回の計6回と年々大規模になりました。

この写真は、各団の代表が選手宣誓をするために練習をしているところです。

< 確おこし >

相手の陣地にある棒を味方の陣地に運びこんで、棒を建てるゲームでした。

ボーイスカウトたちだけの競技でみんな大いに張り切って争っていました。



< 雨の新井小 >



リーダーも参加し行なわれた変形騎馬戦。

背負っているボリタンの中の水が多く残っていたチームが勝ちと言うゲームでした。

スカウトにとってはあまり過激でしたが、リーダーの中には、昔のスカウト時代を思い出して遊んでいたリーダーが多かったです。

移動キャンプ：北海道

<朝食風景>



小樽の公園の中で、朝食の仕度をしていると、ラジオ体操で集まって来た子供達に囲まれて困ってしまっている(?)ところです。

移動キャンプではこのようなその土地の人との交流が良くあるものなのです。

<鉄道にて>



昼食を準備をしているところです。海水浴場のおく脇でうらめしそうにしている所です。この後、ひどい夕立ちに見舞われ、全身ずぶぬれになってしまいました。

<大自然>



北海道の雄大な自然をバックに記念撮影をしているところです。石狩川の土手で休憩している時で、みんなの目には北海道の雄大さが、焼きついて今でも残っているでしょう。

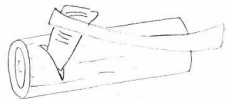
<解散>



長く苦しかった移動も、中野駅で解散すれば楽しい思い出となるのです。

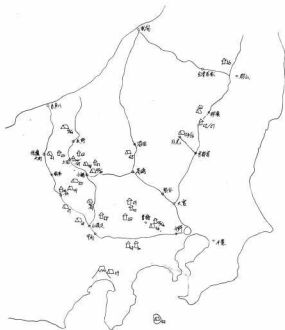
ちなみに、左端の松沢君はビーチャンダルを履いていますが、神田駅で電車に乗ろうとした時、靴を線路に落としてしまったからです。

SPRITS FOREVER



IV. 付 録

1. 中野7団 キャンプの歩み
 - CS隊 BS隊キャンプ場一覽
 - CS隊 キャンプの内容と特色
 - BS隊 キャンプの内容と特色
 - BS隊 年間優秀者の歩み
 - SS隊 キャンプ場一覽
 - SS隊 キャンプの内容と特色
2. 中野7団のゲームについて
3. 中野7団のソングについて



CS隊 カブキャンプ地
BS隊 夏キャンプ地
数字は昭和○年を表す

BS隊夏キャンプ地及びCS隊カブキャンプ地

CS隊		BS隊		CS隊		BS隊					
S42	武甲山	大島	S49	鷲ヶ峰	鷲ヶ峰	S56	五色沼	小倉山	H1	泉敏	今井
43	不明	戸隠	50	八坂	野木平	57	西郡須野	入笠山	H3	敏久	池田
44	保科	戸隠	51	小諸	中山高原	58	上野村	白根	H4	高志	松平
45	羽村	野辺山	52	丹波	奥塩原	59	秩父	御殿場	H5	市原	山本
46	羽村	羽村	53	菅平	小倉山	60	道志川	清木	H6	松本	山本
47	保科	野辺山	54	和田峠	清木	61	野里	聖草			
48	道志	苗ノ丸	55	西郡須野	相馬ヶ原 (マコト)	62	泉敏久	軽井沢			
						63	丹波	山崎			

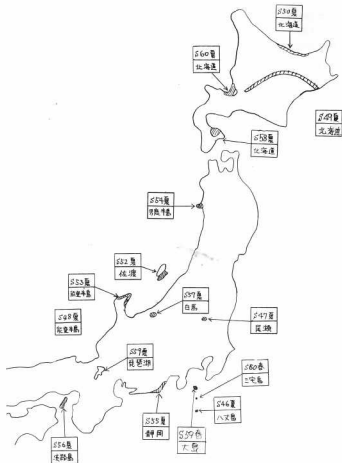
○ BS隊年間優秀班

年度	班名	班長氏名	キャンプ地
S 45	タイガー	福嶋 和美	長野県 野辺山
46	タイガー	武藤 敦人	東京都 羽村
47	タイガー	窪寺 真孝	長野県 野辺山
48	ホーク	鈴木 信之	長野県 湯ノ丸
49	ホーク	武藤 郁人	長野県 鷲ヶ峰
50	バッファロー	雨宮 有	長野県 榎木平
51	バッファロー	雨宮 有	長野県 中山
52	ベガナス	野尻 憲彦	栃木県 奥州原
53	スワロー	佐藤 光信	栃木県 小倉山
54	ベガナス	窪寺 健太郎	長野県 清水
55	スワロー	上野山 聖基	群馬県 相馬ヶ原 ※東京キャンボリー
56	スワロー	藤巻 伸介	栃木県 小倉山
57	コンドル	服部 健一	長野県 入笠山
58	スワロー	吉川 和雄	山梨県 白州
59	スワロー	小山 巽吾	山梨県 御殿場
60	スワロー	上村 健一郎	長野県 清水

昭和45年以来、ボーイ隊では、優秀班制度というものを作って来ました。

これは、年間を通じての別活動に対して、表彰するものです。

優秀班は、年末のヤオナラ会に於て発表され、記念としてその年の夏キャンプにおける班の集合写真(右の写真)を金属サイズのパネルにして贈ります。各班ともこの優秀班を目指してスカウティングにはげむのです。



中野7団のゲーム

中野7団のゲームというと、身体と身体がぶつかりあう激しいゲームが多いことで有名です。ゲームを通じて、現在の子供達に欠けている「汚れる・痛む・つらい等」にたちむかう闘争心を訓練することをねらいにしています。以下に、その例をいくつか御紹介します。

1) ロープとり (CS・BS)

〔用意するもの〕 ロープ、ホイッスル(スカウトロープ又はレンジャー用大ロープ)

- 〔やり方〕 ① 各道毎に陣地を決め、各陣地より等距離の場所にロープを置く
② * 1番の人、2番の人というふうに番号を決めておく。
③ リーダーがホイッスルを吹いて番号を示し、該当のスカウトがロープをとりいき自分の陣地に持っていったら得点。

〔特 徴〕 単純だがかなり白熱するゲーム。(ケツは厳禁にしないと危険)

2) 1、2ブルドッグ (CS・BS)

〔用 するもの〕 なし

- 〔やり方〕 ① 20m位距離に線を2本ひき、
中央にオニを2人立てる。
② ホイッスルに合合わせて残りのスカウトはA、Bラインの間を往復する。
③ 復路する間に、オニはスカウトをつかまえ、もちあげる。(身体の一部でも地面についたらダメ)もちあげた時に、オニは「ワンツールドッグ」と言う。
④ もちあげられた人はオニにかわり、スカウトが1人に残るまで続ける。

〔エピソード〕 当初はいやいややっていたスカウトも「どうせやるならとことん汚してしまう」ことに快感を覚え始め、哲学堂におざわざ水をまいて水たまりをつくり、その中でゲームをすることもあった。今年の2月には雪の上でやった。

3) 関 打 ち (キャンプ場でのナイトゲーム)

〔用意するもの〕 ロープ(各人)

〔やり方〕 結団の中で紐のスカウトを襲い、木にしばりつけてしまえば残った人数を競うという単純なゲーム

〔エピソード〕 第13回清水キャンプ場では、リーダーが柔道をやっているスカウトに巴打ちをくらって動けなくなりました。

4) 究極のメニュー作り

〔用意するもの〕 色々な料理の材料名を書いたカード人数分

- 〔やり方〕 ① カードをバラバラにしてスカウトは戦の中にカードを入れる
② 相手の靴の中のカードをとりあう
③ 時間で区切ってゲームを止め、各道毎にカードを書き集める
④ 集めた材料名を全部使って作れる料理を考え、発表する
⑤ 数多くのカードを集め、うまくメニューができた道が勝ち

〔注 意〕 ぐった煮とは認めず、素材の味を生かしたものを高く評価する

5) WASHOJI (キャンプ中)

〔用意するもの〕 丸太、ポリタン、ロープ

- 〔やり方〕 ① ポリタンに水を一杯入れ、ロープで丸太にしばってつるす(各道毎)
② 道毎にそれをかつぎ、自道の水をこぼされないようにしながら、相手道の水をこぼす
③ 一定時間で区切り、水がたくさん残っている道が勝ち

〔注 意〕 道具着用のこと

6) 夏 の 原 (ゲーム作成当時はやっていた松田昭子の歌のタイトル)

〔用意するもの〕 なし

- 〔やり方〕 ① 各自ネッカーチーフを足首に巻く
② ネッカーチーフをとりあい、足首からネッカーチーフがなくなったら負けただし、他のスカウトからとったネッカーチーフは自分の足につけられる。
③ 多く生き残っている道が勝ち

〔エピソード〕 ゲーム作成当時は、ゴーターをとりあうゲームだったが、ゴーターがどんどん切れてしまい、ネッカーチーフに変更した。高野副長副隊長時代の名作と言われている。

★ 上記のようなゲームはほんの一例で、集会が終わるとスカウトの汗ばんだ服は泥だらけになることもしばしばです。(洗濯・風呂の用意をして下さるお母さん、いつも御迷惑をおかけしています。)

中野7団のソング

七団は、いくつかのオリジナルソングを持っており、集集会やキャンプで積極的にソングを取りあげています。リーダー、スカウト共決して上手とは言えませんが、「人前で歌々と歌を歌えること」を目標にがんばっています。

1) オリジナルソング

- ① 団歌……表紙参照
② 7団マーチ

Let's Go 中野7団 Let's Go 中野7団
みんなで作ろう 明るい社会を
僕達はいつも笑顔を絶やさず (絶やさずに)
個性を入れてがんばるスカウトだ (スカウトだ)
CS (キャンプでは工夫こらしてデン作り) (デン作り)
CS (ナイトゲームではさもだめし) (さもだめし)
雨の日だって雪の日だって 哲学堂が優等の広場
BS (みんなでがんばり 優秀組とるぞ) ウェウウェウウェ
• くり返し

僕達はいつも苦しさには負けない (負けない)
気合いを入れてがんばるスカウトだ (スカウトだ)
BS (キャンプでは丸太組んで小屋作り) (小屋作り)
BS (ナイトゲームは男の戦い) (戦い)
暑い日だって寒い日だって 日曜日時が優等の時間
BS (題目きたえて優秀組とるぞ) ウェウウェウウェ
• くり返し
みんなで作ろう 明るい社会を ヤア!

③ 七団調歌 (新曲)

哲学堂のみどりの森に 今日もひびくスカウトの声
ぼくらスカウト ぼくらスカウト
明るい社会を中野7団
明るい社会を中野7団

2) 集集会用オリジナルソング (かえ歌、訓練前に全員で歌う)

- ① ナーケットレーシングの歌 (手のひらを太陽にの節で)
僕等はみんな7団だ 7団だからナーケット オー!

② ゲームの歌 (赤銅鈴之助の節で)

ゲームをやっつては日本一に 夢は大きな優秀団だ
いつもハキハキ元気な笑顔 弱い人には味方する オー
がんばれ頼むぞ中野一番 七団ボーイ隊

③ ソングの歌 (ドレミファソラシドの音階で)

ソングの時間だ ドワー

④ 手鼓の歌 (ドレミファソラシドの音階で)

手鼓のくんれん ツー

⑤ 結集法の歌 (静かな調子の節で) ~輪唱~

哲学堂の森の影から「結集やろう」とリーダーが言う
「ヤダー」「ヤダー」「ヤダ、ヤダ、ヤダー」

3) 踊り

キャンプファイヤーでは、スタンツ・ソングに交じって、いろいろな踊りを行います。7団では、鈴木隊長がまだ隊行の頃、高校のクラブの合宿で習った踊りをスカウトに教えた事をきっかけにして隊々に充実してきました。(昭和54年清水キャンプ場より~)

① 中野区音頭 (オバQ音頭の節で)

~団作り~

空は晴れたしホイ中野 飯みは無いしホイ中野
心ウキウキオアツムも無いよ ホーイ中野区アールタル
空にナの字の空にナの字の 雷返り雷返り
中野区中野区国作り 中野区中野区国作り ハハ



② 鉄腕アトム

~帰ってきたぞ~

③ エイトマン

④ キングコング

⑤ 宇宙少年ソラン

⑥ 鉄人28号

⑦ 帰ってきたウルトラマン

⑧ ビンボンバン体操

⑨ あっちゃむいて こっちゃむいての歌 (アチャパンヤノチャの替え歌)

⑩ 鬼のパンツ



懐しのヒーロー編

1日目	2日目	3日目	4日目
7:00 集合 7:30 出発	6:00 起床 体操 そうじ 8:00 朝食 点検 9:00 セレモニー 9:30 野外訓練	6:00 起床 体操 そうじ 8:00 朝食 点検 9:00 セレモニー 9:30 ハ イ	6:00 起床 体操 そうじ 8:00 朝食 点検 9:00 セレモニー 9:30 ワイドゲーム
車中			
11:30 キャンプ地着			11:00 デン撤収
昼食	昼食	ヤ	昼食
12:30 デン作り 13:00 セレモニー 13:00 組集会 14:00 ワイドゲーム	12:30 小ハイキング	シ ダ	12:30 閉会セレモニー 13:00 キャンプ地免
16:30 入浴 食事	15:30 工作 16:30 入浴 国歌降納 夕食 18:00 試験会	15:30 組集会 16:30 入浴 国歌降納 夕食 19:00 キャンプファイヤー	17:30 解散
19:00 ナイトゲーム 組集会 21:00 組長会議 消燈	19:00 組長会議 消燈	21:00 組長会議 消燈	

カブ隊夏キャンププログラム概要

カブ隊の夏キャンプは、風物により野外生活が出来ない為、合営を行います。しかし、カブスカウトがボーイスカウトに上達した際、戸感がないようスケジュールは、ボーイスカウトのキャンプとはほぼ同じにしています。

合営は、設営や薪、水などのことはあまり考えなくて良い反面、一般の宿泊客といっしょになってしまうことが多いので、「各組一部屋」が実現できる所を探します。さらに理想は、ランナーの独占使用があります。しかし、夏休みの真昼中に実施され前巻飯の都合もあり、近年非常に難しい問題であります。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6:00 集合 7:00 中野免	6:00 起床 体操 朝食 8:00 点検 朝礼 バイオニア	6:00 起床 体操 朝食 8:00 点検 朝礼 ハ イ カ	6:00 起床 体操 朝食 8:00 点検 朝礼 宝さがし	6:00 起床 体操 朝食 8:00 点検 朝礼 撤営
車中				
11:00 キャンプ地着				
昼食	昼食	シ	昼食	昼食
12:30 設営 ナイト作り	バイオニア 工作物づくり	ダ	ワイドゲーム	14:00 キャンプ地免
16:00 セレモニー 16:30 夕食	17:00 国歌降納 夕食 19:00 ナイトゲーム 20:00 ナイトゲーム 21:00 消燈 班長会議	17:00 国歌降納 夕食会 ナイトゲーム 21:00 消燈 班長会議	17:00 国歌降納 夕食 大営火 21:00 消燈 班長会議	18:30 中野着 19:00 解散

中野7回夏キャンププログラム(一例)

上の表は中野7回夏キャンプのプログラム例です。うちの団は設備の整っているキャンプ場やバンローラなどは利用せず、あくまでも「自然の中で、自然のままで」を motto にキャンプ場を選びます。当然トイレも自分で廻り、薪も拾ってきます。

最近そのような場所が減っているため毎年のキャンプ場選びが悩みのタネとなっています。

さて、うちの団のプログラムで特徴的なのは、バイオニアと夕食会です。バイオニアをやり始めた頃は、三脚を2つ合わせて作る「信号塔」でした。上に登ってみると2階位の高さになります。その後、用で「箱」を作り実演渡りたりもしました。

5～6年前から丸太の数も増え、自然の木を利用した「小屋」も作りました。現在では「小屋」も段々減ってきて、より温ごしやすくなりました。

夕食会は、各班1つの料理を全員作りあい、みんなで食べるというものです。例えば鍋飯、サラダ、ツチュー、焼き肉などを各班で分けて作ります。これに加えてリーダーが鉄板で焼きそばや焼きトウモロコシなどを作り、この鉄板を中心に各班自慢の品を食べます。キャンプ中最大かつ豪華な食事です。同じ日にハイキングがあるため、スカウト、リーダー共このひとときが待ちどろしくなりません。

また、各組一品をうけ持つため下手な料理は出せないと奮起します。

普段は多少休つけが悪くも我慢しますが、この時はやはり自分の班の恥とばかりに頑張ります。食べる事に関してはうるさい7団は、キャンプファイヤー同様この夕食会で盛りあがるのです。

あとがき

7団リーダーの総力を結集して作り上げてきたこの記念誌がついに完成しました。この企画が起ったのが百年の6月、約1年3ヶ月かけての製作には幾多の苦労がありました。その間この企画を支えてきたのは7団リーダーの団結力に他なりません。本文でも述べた通り7団のリーダー全員は7団でスカウト活動をしてきました。この団結力はこうした中で生まれできたわけで、このこと一つについても7団ならではのといえましょう。同時にそれが20年の歴史を築いてきたこととなります。

本誌の内容は大別して、発団から団の活動精神が固まるまでを創設期、新しいプログラムを増やして活動の幅を広げていった時期を発展期、10区分制現在の体制になってほぼ年間の活動が固まった現在までを熟成期としました。今後は、現在までに熟成された7団精神を守りつつさらに発展させる“飛躍期”となるようリーダー自身もスカウティングに励行したいと思えます。この誌を読まれた他団の方々には、このような我々の理念と熱意を御理解いただければ光栄に思えます。また、現在のスカウト諸君にはこのような伝統を持つ7団と7団スピリットを継承し、将来さらに飛躍させる力になって下さい。次の30周年、40周年の頃には君たちが主役となって、もっと素晴らしい団になっていることを期待しています。たとえスカウト活動を離れてしまっても、7団で培ったものを社会に役立てていって下さい。これはリーダー全ての共通の願いなのです。

本誌を作成するにあたり、お祝いの言葉を下さった東京連盟事務長の武田次夫先生はじめ中野地区諸先生方、御協力いただいた中野10団リーダーの皆様、印刷については不慣れな私共を親身に御協力いただいた共同美術印刷株式会社には、紙面を借りて御礼申し上げます。

巻末

1986年9月